

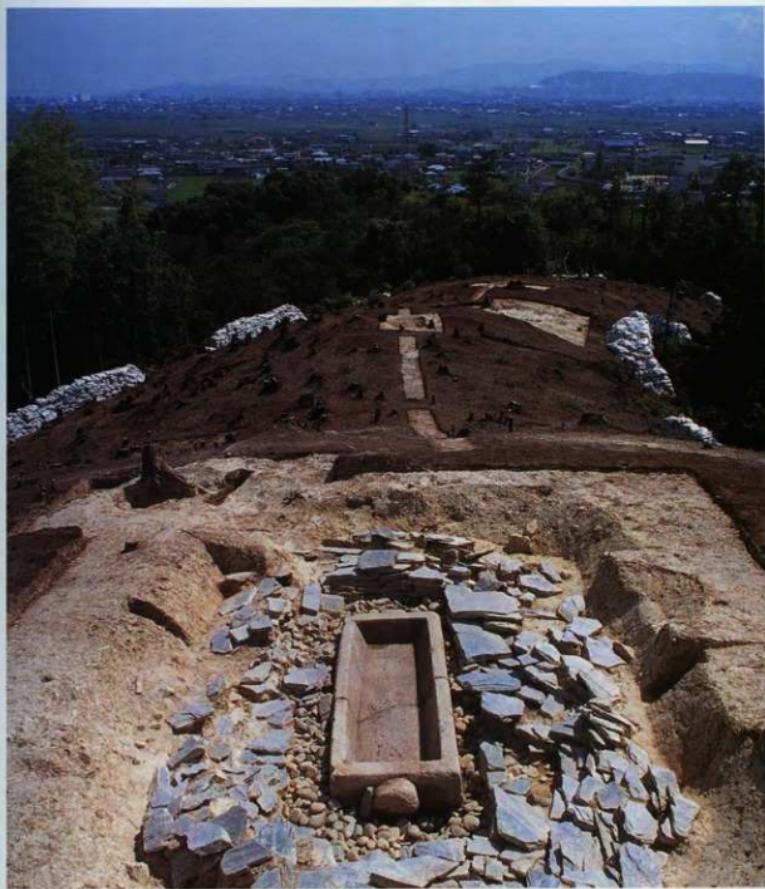
徳島県

# 埋蔵文化財センター年報

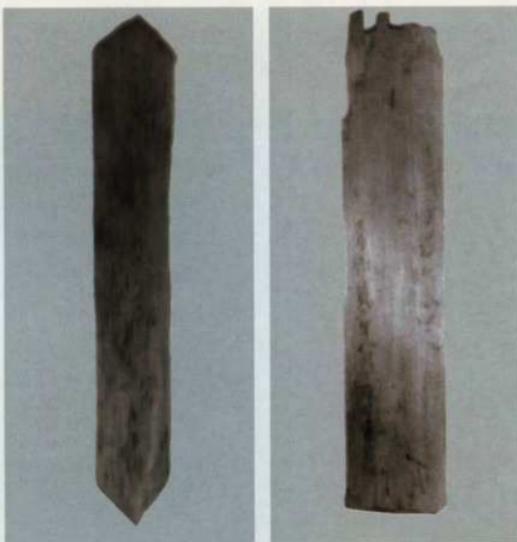
Vol. 12 2000年度

2001

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



大代古墳より徳島平野を臨む



木簡（觀音寺遺跡）



鏡像（中庄東遺跡）

## はじめに

本書は平成12年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業概要をまとめたものであります。

12年度は四国横断自動車道関連事業の最終年度になりましたが、多くの貴重な成果が得られました。徳島県最古の古墳とみられる西山谷2号墳や本県で初めて確認された刳抜式石棺を納めた大代古墳、高地性集落のカネガ谷遺跡などであります。これらの成果については現地説明会や速報展などで多くの方々に御覧いただくことができました。

また遺跡の重要性に鑑み、西山谷2号墳の移築や大代古墳の現地保存について、格別の御配慮をいただいた日本道路公团をはじめ、文化庁、県文化財保護審議会、県高速道路推進局、鳴門市、板野町及び考古学研究者の方々には様々な御指導・御協力をいただきました。

西山谷2号墳については、次年度の県事業として県立埋蔵文化財総合センターでの展示が計画されております。また、大代古墳については県指定史跡の指定にもけて御審議いただいているところであります。

このほかにも徳島環状線（国府工区）では昨年度に引き続き古代史を検討するうえで重要な木簡の出土がありました。徳島城下町の調査では御船屋と呼ばれる徳島藩海上方施設の一端をうかがえる成果も得られました。こうした成果については、さらに普及活用に努めたいと考えております。

本書の刊行にあたり、関係各位並びに関係機関に御礼申し上げるとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 青木武久

## 目 次

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	6
II 平成12年度事業概要	7
III 調査事業報告	10
四国横断自動車道関連発掘調査	
桧はしまき山遺跡	15
浄土寺遺跡	17
浄土寺山古墳群	19
西山田古墳群（I）	20
カネガ谷遺跡	21
西山谷古墳群	23
大谷山田遺跡	25
大代古墳	26
辺露遺跡	28
試掘調査	29
板東塚鼻遺跡　西山田古墳群（II）　カネガ谷西古墳群	
延谷東遺跡　王子八幡神社古墳群　長谷古墳群	
滝ヶ谷古墳群　中内遺跡	
一般国道192号徳島南環状線関連等発掘調査	
観音寺遺跡	31
南前川町1丁目遺跡	32
中庄東遺跡	33
一般公共事業関連発掘調査	
観音寺遺跡	35
敷地遺跡	37
池尻　桜間遺跡	39
御船屋跡遺跡	41
田宮遺跡	42
石井城ノ内遺跡	43
古町遺跡	44
町口遺跡	46
別所遺跡	47
中庄東遺跡	48
大柿遺跡	50
東州津遺跡	51

圃場整備事業関連発掘調査	52
東原 吉友遺跡 芝遺跡 蒲生田遺跡	
東山遺跡 柳瀬 大谷遺跡	
遺跡地図整備事業	54
IV 整理事業報告	55
V 埋蔵文化財センターの活動	56
VI 受贈図書	61

## 例　　言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成12年度事業をまとめた年報である。
- 2 Ⅲ事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各図に図幅名を記した。
- 3 Ⅲ事業報告の概要は各担当が執筆し、その責を文末に記した。
- 4 本書の編集は菅原 原が行った。

## 平成12年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

### 役員

**理事長**  
青木 武久 県教育長  
**副理事長**  
河口 浩三 県教育次長  
松村 通治 県教育次長  
田上 勝義 県教育次長  
**専務理事**  
寒川 光明  
**常務理事**  
伊丹 康裕 県教育委員会参事  
**理事**  
松本 竹生 県教育委員会総務課長  
岸本 哲哉 県教育委員会教職員課長  
新開 英毅 県教育委員会文化財課長  
村上 司郎 県土木部監理課長  
**監事**  
林 祐次郎 県副出納長  
平尾 俊宏 県教育委員会生涯学習課長

### 所長

寒川 光明  
事務局長  
伊丹 康裕  
**総務課**  
次長兼総務課長 高野 明  
主査兼係長 福本紀美子  
主事 田所 政儀  
技術主任 横原 義則 (財)徳島県土木技術協会派遣  
臨時補助員 福本 桂子 河野ちひろ  
西本 尚子 作田加奈子

### 調査課

調査課長 菅原 康夫  
調査第一係長 光山 忠幸  
研究員 前川 直江 上窪 昭英  
調査補助員 松田 貢 深田 晃司  
研究員 谷 恒二 加藤 公夫  
調査補助員 元木 浩司 河野 啓介  
研究員 相原 聰 梶河 智江  
研究員 須崎 一幸 近藤 玲  
研究員 大橋 育順 島田 豊彰  
**調査補助員**  
岡本 聖子 金崎 教子  
金丸 弓子 川真田隆子  
堺 圭子 塩田 久美  
高尾 和彦 富本 光  
長瀬 尚子 新居 秀樹  
橋本 直幸 平田 富香  
平沼 彩子 福島 朱美  
宮井 孝幸 山本 肇司  
主査兼調査第二係長 武市 文雄  
研究員 橋本 守正 宮谷 純弘  
整理係長 研究員 佐藤 治史 堤 英明  
書記長 整理作業員 高田 史子 喜多 啓二  
臨時補助員



大山 昌敏	宮本 格	普 及 係 長	青木 秀明
橋本 寿夫	貞野 保仁	研 究 員	植地 岳彦
大石 修一	岩佐 正人	臨 時 補 助 員	高尾 准子 高本 順子
植谷 久代	下内 新吾		長谷川 愛
高柳 孝治	佐藤 宏明		
川村 哲夫	斎 浩市		
松田 幸	近藤 佳人		
木村 哲也	林 賢彦		
小泉 信司	氏家 敏之		
原 芳伸	田川 憲		
幸泉 満夫			
調査補助員	有馬加奈恵	市原 靖子	
	猪本 泰子	岡本 亜弥	
	柿本 竜一	片山 啓子	
	加藤真由己	京寛 裕子	
	小松いづみ	佐藤 千佳	
	鳥田 麻美	杉本 道子	
	高居あゆみ	高田 幸時	
	高橋 奈巳	中田 和美	
	中村 太	西川 恵子	
	畠田 札美	濱上 千鶴	
	板東 美幸	平島 雄介	
	藤井 崇裕	本那 令子	
	森 一未	森口 尚志	
	森田 猛	山本 成美	
	横石 典子		

#### 整理普及課

整理普及課長	島巡 賢二
整理係長	西谷 泰幸
主任研究員	久保脇美朗
研究員	野村 雅子 岡山真知子 烏野 美子 中村 好江 齊藤 剛 泊 強 横田 温生 下窪 光俊 石尾 和仁 金森 映人 日下 正剛 福良 穀 藤川 智之 栗林 譲治 大北 和美

## I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

### 1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

### 2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

### 3 設立年月日

平成元年4月1日

### 4 出資者

徳島県

### 5 基本財産

10,000千円

### 6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2

## II 平成12年度事業概要

### 1 理事会の開催

#### 第44回臨時理事会

開催日 平成12年4月1日

議案 役員の選任について

#### 第45回通常理事会

開催日 平成12年6月22日

議案 平成11年度事業報告について

平成11年度事業収支決算について

平成11年度未処分剩余金の処理について

#### 第46回通常理事会

開催日 平成13年3月16日

議案 平成12年度事業収支予算の補正について

平成13年度事業計画案について

平成13年度事業収支予算案について

有識者理事の選任について

### 2 事業の実施状況について

#### (1) 埋蔵文化財発掘調査

徳島県から委託を受け、次の発掘調査を行った。

① 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査で、17の古墳群や遺跡20,590m<sup>2</sup>の発掘調査と1,995m<sup>2</sup>の試掘調査を実施した。

② 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡262m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

③ 一般国道32号井川IC関連改良工事に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡990m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

④ 加茂第一区堤防の事業に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡4,759m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

⑤ 鳴門教育大学南前川団地施設新営工事に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡1,200m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

⑥ 徳島県事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

建設事業の工事予定箇所で、64,942m<sup>2</sup>の調査を実施した。

徳島環状線（国府工区）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、26,582m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

街路事業徳島東環状線建設事業に伴う埋蔵文化財調査で、1,992m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

街路事業常三島中島田線改築事業に伴う埋蔵文化財調査で、1,394m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

道路改築事業（徳島引田線）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、1,056m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

道路改築事業（住宅関連）（板野川島線）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、1,740m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

道路改築事業（宮川内牛島停車場線）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、1,010m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

道路改良事業（出口太刀野線）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で、21,142m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

県代行緊急地方道路整備事業（町道光下新町線）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、4,600m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

県営住宅（石井曾我団地）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、1,596m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（立江梅瀬地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m<sup>2</sup>の試掘発掘調査を実施した。

中山間地域総合整備事業（新野地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m<sup>2</sup>の試掘発掘調査を実施した。

中山間地域総合整備事業（椿東部地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m<sup>2</sup>の試掘発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（担い手育成型）（海部川右岸地区）に伴う埋蔵文化財調査で500m<sup>2</sup>の試掘発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（切幡地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m<sup>2</sup>の試掘発掘調査を実施した。

県営担い手育成基盤整備事業（岩倉地区）に伴う埋蔵文化財調査で、750m<sup>2</sup>の試掘発掘調査を実施した。

遺跡地図整備事業で、海部郡、阿南市、那賀郡の一部14,547km<sup>2</sup>の遺跡精密分布調査を実施した。

## （2）出土文化財整理

徳島県から委託を受け、次の出土文化財の整理業務を行った。

- ① 四国縦貫自動車道建設工事関連で、出土文化財1,120箱の整理業務を実施した。
- ② 一般国道徳島南環状道路改築関連で、出土文化財840箱の整理業務を実施した。

### ③ 徳島県等の事業関連出土文化財整理

西部テクノスクール建設工事関連で、出土文化財210箱の整理業務を実施した。

県営住宅（石井曾我団地）建設工事関連で、出土文化財140箱の整理業務を実施した。

鳴門教育大学（附小）校舎新設工事関連で、出土文化財93箱の整理業務を実施した。

## （3）出土品保存活用検索システム整備事業

県の「緊急雇用対策」をうけて、出土文化財の効率的な収蔵管理と、社会教育、学校教育の場で、広く有効活用が図られることを目的に、「出土品保存活用検索システム」の構築を実施した。

## 検索システム構築

## 収蔵庫内遺物整理

## (4) 発掘調査報告書の発刊

発掘調査結果を報告書として作成し刊行した。

薬師坊僧遺跡（四国縦貫自動車道建設工事に伴う出土文化財整理）

貞光前田遺跡（西部テクノスクール建設工事関連出土文化財整理）

## (5) 普及、啓発活動

①埋蔵文化財速報展「2000発掘とくしま」を開催した。

②埋蔵文化財移動展を三好町、海南町で開催した。

③発掘調査成果報告会及び関連の講演会を開催した。

④鳴門市大代古墳他で、現地説明会・現地見学会等を実施した。

⑤市町村埋蔵文化財担当職員研修会を開催した。

## 3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成12年度収支決算は次のとおりである。

## (1) 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 基本財産運用収入	10,000	10,965	965	
2 事業収入	2,231,271,000	2,231,271,799	799	
3 雑収入	275,000	275,487	487	
4 繰越金	5,234,000	5,234,486	486	
合 計	2,236,790,000	2,236,792,737	2,737	

## (2) 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 事業費	2,075,706,000	2,075,700,204	△5,796	
2 管理費	117,719,000	112,207,764	△5,511,236	
3 その他支出	2,742,000	2,741,131	△869	
4 消費税	40,623,000	40,622,700	△300	
合 計	2,236,790,000	2,231,271,799	△5,518,201	

### III 調査事業報告

平成12年度は徳島県と同年4月1日付けて締結した業務委託契約書に基づいて事業を実施した。

四国横断自動車道（板野～鳴門）関連調査は、本年度鳴門市域で全面展開し、鳴門市カネガ谷遺跡を最後に調査を完了した。当該事業は徳島県内の延長距離16.3kmに調査対象遺跡65ヶ所434,000m<sup>2</sup>が設定されていたが、平成9年度4遺跡2,718m<sup>2</sup>、10年度14遺跡6,610m<sup>2</sup>、11年度24遺跡9,050m<sup>2</sup>、12年度17遺跡22,585m<sup>2</sup>の調査を行った。投入班数は148班／月で（1班構成 研究員2名 調査補助員2名）で、実掘率は20%を切った。

桧はしまき山遺跡、カネガ谷遺跡では高地性集落を調査した。桧はしまき山遺跡は標高56～86mの屋根斜面に竪穴住居11棟、段状遺構11基が検出された。カネガ谷遺跡は標高79～119mに位置する。11棟の竪穴住居が検出された。南斜面2条、東西斜面1条の段状遺構で区画された集落を形成する。調査区域北50mの尾根頂部から下降する北斜面には、3条の堀削状地形が遺存している。段状遺構は尾根を取り囲むものとみられ、集落域約10,000m<sup>2</sup>と推測される。

両遺跡間の距離は2.4kmを測る。いずれも中期末～後期初頭の時期幅があるが、集落構造 遺物組成に明瞭な相違がある。後期初頭の防護施設は三野町大谷尻遺跡にもみられ、吉野川流域の高地性集落の動向を検討するうえで重要な資料であるが、カネガ谷遺跡では内行花文放射線状文仿製鏡や袋状鉄斧、鑿状鉄器、銅鏡朱精製用石杵、管玉など平地の拠点集落にも匹敵する品目がみられる。本遺跡の東尾根には萩原墳墓群が位置し、以降当該地域では中国鏡の流入が顕著になる。律令制下においては南海道が敷設され、東四国の玄関口となるが、物流拠点域の形成が当該期に遡ることをうかがわせる資料として重要である。

古墳調査は5遺跡で実施した。西山谷古墳群では円墳2、竪穴式石室墓3、石蓋土壙墓1が検出されたが、円墳の2号墳では結晶片岩板石を小口積みした竪穴式石室が構築されている。石室外周上半は墓壙際まで結晶片岩を充填しており、徳島市宮谷古墳と類似した構築法をとる。石室床面直上まで攢乱土が堆積し、蓋に相当する石材は遺存していない。石室上側面が持ち送り構造を示すことや棺床北小口周辺（頭部）に散在した鉄鎌、南小口周辺の土器の出土状態から、後世に攢拌を受けたものとみられるが、一方、鏡や側壁際の鉄槍、劍などは原位置を示している。棺床に明瞭な攢乱が及んでいないことを考慮すれば、石室上面は木蓋構造で、鉄鎌群、土器類が上面に安置されていた可能性は残る。さらに検討が必要である。出土土器は徳島県の既往の編年では黒谷川III式に収まるものであり、おおむね3世紀中葉頃の年代観が与えられる。本石室については移築復元することとなり、平成12年8月に石室の切り取り、搬出作業を実施した。

大代古墳は平成12年3月10日立木伐採後、初めて存在が確認された南向きの前方後円墳である。日本道路公團と県教育委員会との文化財の取り扱い協議では日開谷東古墳群とされていた地点で、標高43mの尾根に位置する大代古墳を挟んで2基の円墳が構築されている。県教育委員会 埋蔵文化財センターは存在確認後、ただちに道路公團に現状保存を申し入れ、協議を開始した。そのため、併行して実施する調査は墳丘規模 構築年代 外表施設 内部構造の確認について最小限の調査にとどめることとした。全長54m、2段築成で円筒埴輪 形象埴輪をもち、竪穴式石室内に香川県火山産白色凝灰岩製舟形石棺を安置する。4世紀末の構築で、削抜式石棺の出土は徳島県初である。本墳については県教育委員会と協議のうえ、大代古墳と命名したが、平成12年9月初旬、道路構造の変更による現状保存が決定したこと。

とを踏まえ（トンネル保存）、同年11月30日埋蔵文化財センター理事長名で徳島県指定史跡申請書の届出を行った。

なお舟形石棺については現地で埋め戻したため、同年県費によるレプリカ作成を行い、県立埋蔵文化財総合センターで常設展示することとした。

その他、カネガ谷遺跡では片袖式横穴式石室、大谷山田遺跡では無袖張型横穴式石室や小豊穴式石室の調査を行った。以上の調査については『阿讃山脈東南縁の古墳群－四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報－』2001に成果概要を記した。

小規模一般公事業等では圃場整備事業に伴い、四国最東端、阿南市蒲生田岬の先端に位置する蒲生田遺跡で初めて調査を行った。砂堤に沿った湖沼に堆積した縄文時代から古墳時代にかけての遺物包含層があり、船元式から中津式にかけての縄文土器や紀伊地域からの搬入とみられる弥生中期の土器が確認された。

徳島環状線（国府工区）の観音寺遺跡では平成9～10年度に大量の木簡 木製品が出土した河道の延長部と考えられる地点の調査を行ったが、8世紀中葉から後葉の遺物と共伴した木簡12点、9世紀末から10世紀初頭の遺物と共伴した木簡2点が得られた。紀年をもつ木簡が2点ある。天平勝寶二年銘と延暦三年銘木簡である。このうち天平勝寶二年を記した木簡は「謹解」で始まる公事に関わって稻九十四束を計上しなかった非違を申し出た内容と推測される。解が国衙において木簡として通用していたことを示す資料でとみられる。本年度の観音寺遺跡では「桜間米五斗」「井上生王マ満万呂」「井上口口佐流」「八万大名」と記載された木簡が出土しているが、これまでにも「井上戸主口全□□一七」「鴨里錦部虎津奏上大刀」など、名方郡に由来する郷名を記した木簡が目立っている（枳文は京都教育大学 和田萃教授による）。これまでに出土した木簡の内容から想定されたように、この地に阿波國府と名方郡衙が併設されていた可能性が一層強まったといえよう。

観音寺遺跡とともに国司館の存在が確認されている敷地遺跡では、遺跡内を縱断して北流する現在の西大堀川の旧堆積土から「是□〔菜カ〕漬他人不可取犯」と記された9世紀前半の大型木簡が出土した。

板野町古町遺跡では現存地割に併行する9世紀後半のN10°Wの主軸をもつ条里溝 挖立柱建物、三加茂町中庄東遺跡では9世紀のN10°Eの主軸をもつ条里溝が検出された。

中世では中庄東遺跡で13世紀前葉の集石土坑から廃棄された状態で鏡像が出土した。宋鏡式鏡で、鏡面に蹴影りの枳迦如来像が彫られ、鏡背には後刻とみられる「あみたほとけ」「五」の文字が毛彫りされている。当地は中世においては金丸庄といい、12世紀末には蓮華王院領、13世紀前葉には醍醐寺遍智院領に替わっている。鏡像の廃棄が莊園領主の交替と有機的な関連をもつかどうかは今後検討する必要がある。

近世では徳島城下町の調査を実施した。徳島市安宅に位置する御船屋跡は徳島藩水軍の根拠地である安宅役所跡の一角を占める。当初は、常三島に設けられており、水夫の居住地も周辺に位置されていた。17世紀前半に現在地に移設された。安宅御役所敷地は南北228間、東126間、西150間の台形を呈す。主要施設に御門開所御番、御船屋90軒、御蔵18軒、御番所6カ所、御役所14軒などがあり、役所内には間連の施設が配置され、一大ドックを形成していたようである。安宅御船藏絵図（江戸時代末）によれば、現・住吉島川に面して鍵の手状に堀割が伸び、堀割の両岸に船を格納したとみられる御船屋が建ち並ぶ。今回の調査は当該施設の北西橋部分に該当しており、棧橋状の基礎部が検出された。本施設に格納された艦艇の特定もおおよそ可能である。次年度以降、隣接地点の調査計画があるが、今回の調査区は道路構造上、掘削等の工事影響が下部に及ばないため、県教育委員会・都市道路整備局と協議のうえ、砂養生して埋め戻しを行った。（菅原）

四国横断自動車道関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	桧はしまき山遺跡	鳴門市大麻町桧字西谷山17-1他	5,200m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 4 1~12. 12. 31	○弥生時代	堅穴住居 段状遺構	弥生土器 石器 磨製石斧
2	板東塚鼻道路	鳴門市大麻町板東字西平章136他	150m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 7 15~12. 7. 31 13. 1 1~13. 1 15		なし	なし
3	淨土寺遺跡	鳴門市大麻町板東字淨土寺7他	2,300m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 5 1~12. 9. 30	○弥生時代 ○鎌倉時代	土坑 挖立柱建物 池 房 焼窯	弥生土器 須恵器 土師質土器 陶器 磁器 瓦 鉄製品
4	淨土寺山古墳群	鳴門市大麻町萩原字淨土寺53他	125m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 4 1~12. 5. 31	○古墳時代	溝状遺構	須恵器 土師器 鉄製品
5	西山田古墳群(1)	鳴門市大麻町萩原字チコノ谷1-2他	800m <sup>2</sup> (調査面積) 380m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 6 1~12. 9. 30	○古墳時代	横穴式石室	須恵器 土師器 ガラス玉 管玉 鉄製品
6	西山田古墳群(II)	鳴門市大麻町萩原字西田山123-1他	90m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 4 1~12. 5. 31		なし	なし
7	カネガ谷西古墳群	鳴門市大麻町萩原字カネガ谷16-1他	100m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 4 1~12. 5. 15		なし	なし
8	カネガ谷遺跡	鳴門市大麻町萩原字カネガ谷4他	9,670m <sup>2</sup> (調査面積) 330m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 5 16~13. 3. 31	○弥生時代 ○古墳時代	段状遺構 堅穴住居 焼土坑 横穴式石室	弥生土器 銅鏡 銅鏡 土器 石器 石器 土石 有鉛投彈 士銅 鐵劍 切子玉 ガラス 小玉
9	延谷東遺跡	鳴門市大麻町萩原字延谷3-1他	150m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 6 1~12. 7. 15	○弥生時代	堅穴住居	弥生土器
10	王子八幡神社古墳群	鳴門市大麻町萩原字小谷2-5他	100m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 7 16~12. 8. 31		なし	なし
11	長谷古墳群	鳴門市大麻町萩原字長谷3-5他	150m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 7 1~12. 7. 31		なし	なし
12	魂ヶ谷古墳群	鳴門市大麻町萩原魂ヶ谷35他	110m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 6 1~12. 6. 30		なし	なし
13	中内遺跡	鳴門市大麻町池谷字中内54他	50m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 4 1~12. 4. 30		なし	なし
14	西山谷古墳群	鳴門市大麻町大谷字西谷15-2他	960m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 6 1~12. 6. 30	○古墳時代	堅穴式石室 堅穴式石室 室墓 石器 土壤墓	土師器 銅鏡 鉄劍 鉄槍 鉄旗 瓢 砥石
15	大谷山田遺跡	鳴門市大麻町大谷字御原34他	420m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 4 1~12. 5. 31	○古墳時代	横穴式石室 堅穴式石室 石室	須恵器 刀子 耳環 ガラス玉 玉管 鉄製品
16	大代古墳	鳴門市大津町大代字御谷1484-2他	440m <sup>2</sup> (調査面積) 260m <sup>2</sup> (試掘調査)	12. 4 1~12. 11. 30	○古墳時代	堅穴式石室 箱式石棺	石棺 銅鏡 銅鏡 鉄刀 鉄槍 鉄鍔 刀子 短甲 勾玉 玉管 白玉 墓輪
17	辺路遺跡	鳴門市大津町大代字辺路832他	800m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 4 1~12. 5. 31	○縄文時代 ○弥生時代 ○古墳時代 ○鎌倉時代	土坑 自然 流路	縄文土器 弥生土器 須恵器 製塙土器

◎主体となる時期

一般国道192号徳島南環状線開通等埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	観音寺遺跡	徳島市国府町観音寺字屋敷518他	262m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 10. 1~12. 11. 30	○奈良時代 ○平安時代	土坑 柱穴 溝	須恵器
2	南前川町1丁目遺跡(鳴門教育大附属小学校新校舎)	徳島市南前川町1丁目1	400m <sup>2</sup> (調査面積) 1,200m <sup>2</sup> (延べ面積)	12. 4 1~12. 6. 30	○江戸時代	池状遺構 溝 土坑	陶器 磁器 土師質土器 木製品 土器 金屬製品 ガラス製品 瓦

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
3	東州津遺跡（一般国道32号井川IC間施改良工事）	三好郡池田町宇州津西ノ久保294-4他	990m <sup>2</sup> （調査面積）	13. 1 1~13. 3. 31	縄文時代 ○弥生時代 古墳時代	土坑 桂穴 溝状 墓窓 遺構 窟	縄文土器 弥生土器 土師質土器 須恵器 石器
4	中庄東遺跡（加茂第1地区堤防事業） (道路改良事業・出口太刀野線)	三好郡三加茂町中庄437-3他	3,497m <sup>2</sup> （国 調査面積） 4,759m <sup>2</sup> （県 調査面積） 3,185m <sup>2</sup> （県 調査面積） 5,953m <sup>2</sup> （県 調査面積）	12. 4 1~13. 3. 31	飛鳥時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 堅穴住居 土壙墓 水田 自然流路	土師器 須恵器 瓦 磁器 砥石 陶器 製品 鏡像 瓦

◎主体となる時期

### 一般公共事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	般音寺道路（道路改築事業・徳島環状線國府工区-）	徳島市国府町觀音寺字舟ノ尾325他	4,003m <sup>2</sup> （調査面積） 4,836m <sup>2</sup> （延べ面積）	12. 4 1~13. 3. 31	弥生時代 古墳時代 ○奈良時代 ○平安時代 鎌倉時代 室町時代	土坑 土壙 溝 水田 自然流路	土師器 須恵器 黒色土器 瓦 鉄器 木簡 墨書き 木製品 筋書土器 瓦骨
2	敷地道路（道路改築事業・徳島環状線國府工区-）	徳島市国府町敷地字北浦353他	4,544m <sup>2</sup> （調査面積） 14,286m <sup>2</sup> （延べ面積）	12. 4 1~13. 3. 31	弥生時代 ○古墳時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代 江戸時代	掘立柱建物 堅穴住居 土坑 溝 自然流路	弥生土器 土師器 須恵器 黑色土器 瓦器 青磁 白磁 鐵器 銀貨 木製品 木簡 墨書き 土師器 瓦骨
3	泡尻 桜間遺跡（道路改築事業・徳島環状線國府工区-）	徳島市国府町ムサ325他	3,730m <sup>2</sup> （調査面積） 7,460m <sup>2</sup> （延べ面積）	12. 4 1~13. 3. 31	弥生時代 古墳時代 ○奈良時代 ○平安時代 鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 土坑 溝 水田	弥生土器 土師器 須恵器 黑色土器 瓦器 鉄器
4	般音寺遺跡（道路改築事業・徳島環状線國府工区-）	徳島市国府町池尻字高道118-2他	3,389m <sup>2</sup> （調査面積）	13. 1 15~13. 1. 31	○古墳時代 ○平安時代	掘立柱建物 堅穴住居 溝 土坑 自然流路	土師器 須恵器 黑色土器 瓦器 木製品 鉄 骨
5	敷地道路（道路改築事業・徳島環状線國府工区-）	徳島市国府町敷地字北浦357他	2,854m <sup>2</sup> （調査面積）	13. 1 15~13. 1. 31	○古墳時代 ○平安時代	掘立柱建物 堅穴住居 溝 土坑 自然流路	土師器 須恵器 黑色土器 瓦器 木製品 鉄 骨
6	御船山跡 遺跡（街路事業・徳島東環状線）	徳島市安土2丁目140他	1,992m <sup>2</sup> （調査面積）	12. 10. 1~13. 3. 31	○江戸時代	ドック状遺構 集石遺構	陶器 磁器 木製品 土製品 金属製品 瓦
7	田宮遺跡（街路事業常三島中島田園）	徳島市南田宮4丁目1-34他	495m <sup>2</sup> （調査面積） 1,394m <sup>2</sup> （延べ面積）	12. 9 1~12. 12. 31	○鎌倉時代 室町時代 ○江戸時代	土坑 溝 自然流路	小柄 瓦器 磁器
8	石井城／内遺跡（黒堂住宅・石井曾我團地・建設工事）	名西郡石井町石井字城ノ内381-1	456m <sup>2</sup> （調査面積） 1,596m <sup>2</sup> （延べ面積）	12. 9 1~12. 12. 31	○弥生時代 平安時代	掘立柱建物 土壙墓 土坑	弥生土器 土師器 須恵器 黑色土器 石器 鉄器
9	古町遺跡（県道板野川烏鵲道路改築（住宅周辺）事業）	板野郡板野町大寺字植ノ本39-2他	580m <sup>2</sup> （調査面積） 1,740m <sup>2</sup> （延べ面積）	13. 1. 14~13. 3. 31	○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 溝 土坑	側鏡 石帶 緑釉陶器 灰陶器 赤色 後彩土器 土師器 瓦器 黑色土器 鐵骨
10	轎・須遺跡（道路改築事業・徳島引線）	板野郡板野町川端字轎ヶ須27-1他	1,056m <sup>2</sup> （調査面積）	12. 7 1~12. 8. 31		なし	なし
11	町口遺跡（道路改築事業・宮川内牛島停車場線）	板野郡吉野町西条字町口33-3他	505m <sup>2</sup> （調査面積） 1,010m <sup>2</sup> （延べ面積）	12. 4 4~12. 6. 30	○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 溝 土坑	土師質土器 須恵器 土器 陶器 瓦器 燒締陶器
12	別所遺跡（県営招い手育成基盤整備事業・岩倉地区）	美馬郡臨町2550他	750m <sup>2</sup> （調査面積）	12. 12. 1~13. 2. 28	○弥生時代 古墳時代 平安時代 ○室町時代	堅穴住居 土坑 桂穴 水田	弥生土器 須恵器 土器 陶器 磁器 石器 鐵器 瓦

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
13	中庄東道路（道路改良事業一出口太刀野線）	三好郡三加茂町 中庄434他	7,953m <sup>2</sup> (調査面積) 15,189m <sup>2</sup> (延べ面積)	12. 4. 6 ~ 13. 3. 7	○飛鳥時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 堅穴住居 溝 土坑 柱穴 水田	土器 須恵器 銅製品 錢貨
14	大柿遺跡（県代行緊急道路整備事業-町道光下新町線）	三好郡三好町昇間2236他	1,095m <sup>2</sup> (調査面積) 4,600m <sup>2</sup> (延べ面積)	12. 4. 4 ~ 12. 12. 31	○弥生時代 ○室町時代	水田 土坑 柱穴 自然流路	弥生土器 陶器 磁器 錢貨
15	東原 吉友遺跡（県営圃場整備事業-切幡地区）	阿波郡市場町大字 切幡字吉友 221他	500m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 10. 1 ~ 12. 11. 30	○古墳時代 ○鎌倉時代	土坑 自然流路	須恵器 土器 磁器
16	芝道路（県営圃場整備事業-担い手育成型 海部川右岸地区）	海部郡海部町芝字岸能上48他	500m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 12. 1 ~ 13. 1. 31	○弥生時代 ○古墳時代	堅穴住居 土坑	弥生土器 石器
17	蒲生田遺跡（中山間地域総合整備事業-東部蒲生田地区）	阿南市椿町蒲生田274他	500m <sup>2</sup> (調査面積)	12. 12. 1 ~ 13. 1. 31	○绳文時代 ○弥生時代 ○室町時代	土坑	绳文土器 土器 瓦質土器 石器
18	東山遺跡（中山間地域総合整備事業-新野地区）	阿南市新野町56-2他	500m <sup>2</sup> (調査面積)	13. 2. 1 ~ 13. 3. 31	○鎌倉時代	土坑	土師質土器 磁器
19	鴨池 大谷遺跡（県営圃場整備事業-立江・鴨池地区）	小松島市鴨池町北側36-1他	500m <sup>2</sup> (調査面積)	13. 2. 1 ~ 13. 3. 31	○古墳時代 ○室町時代	土坑	須恵器 土師質土器

◎主体となる時期

### 遺跡地図整備事業

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	分布調査	那賀郡 阿南市 海部郡	14,547m <sup>2</sup>	12. 4. 1 ~ 13. 3. 31			

◎主体となる時期



# ひのき 檜はちまき山遺跡

**所在地** 鳴門市大麻町桧字西谷山17-1他  
**調査期間** 2000年4月1日～2000年12月31日  
**担当者** 下内 喜多

**調査概要** 檜はちまき山遺跡は阿讃山脈南麓の標高56～86mの地点に位置する。調査区は北から南への傾斜面と西から東への傾斜面に大きく分かれる。

本調査区南部に隣接する地区は、平成3年度に鳴門市によって発掘調査が行われた。その結果、弥生時代中期以降の竪穴住居群が確認されている。

今回の発掘調査の結果、弥生時代中期末～後期初頭頃に形成された高地性集落の存在が明らかになった。

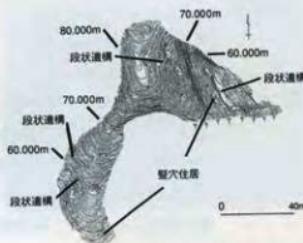
**主な遺構** 竪穴住居が調査区の東側および南側の斜面上で検出され、合計11軒を確認した。竪穴住居は、斜面の勾配が比較的緩やかな地点に築かれている。現状では、谷側の床面が流失しているものが多いが、山側で円形または楕円形プランの一部が確認できる。遺存状況の良い住居跡からは、柱穴の他に、周溝、炉跡が検出された。なかには床面に炭化物の広がりがみられるものがある。これは、火災に遭った跡と考えられる。

最も大型の竪穴住居は、頂部の標高82mの地点で検出された。床面は、谷側部分の半分近くが流失しているが、長軸9mの楕円形プランをもつと推測できる。3区の東斜面、標高67mの地点には、直径6mの円形プランをもつ石器工房が比較的良好な遺存状況で存在し、床面上から2,000点近くのサヌカイトチップ、サヌカイト剥片、若干のサヌカイトイ製石器が検出された。

また、斜面を「L」字状にカットすることでの平坦な地形を造りだした段状遺構が、竪穴



1 調査地点の位置 (川島)



2 地形平面図・遺構配置図



3 東斜面段状遺構完掘状況 (北より)

住居を取り囲むように、合計11基が検出された。それらは、等高線に平行するように形成されており、一部には柱穴を伴うものもある。小型のものは長さ4m、幅0.5mほどの規模であるが、最も大型のものは全長25m、幅3mを測り、標高64mの等高線ラインに沿って3区を北西から南東に横断している。

本遺跡を特徴づける段状造構は、堅穴住居を中心として形成されているものが多い。これらは、規模や形状等から防衛的機能を持つというよりも、住居付近の土砂崩落防止等、住居（平坦面）を維持する上での付帯施設のようなものであると思われる。

その他の造構としては、ピットが36基、土坑が12基検出された。

#### 主な遺物

約9,000点の遺物が出土した。サヌカイト製石鏃31点、磨製石斧17点、石劍、石杵、台石等の石器類、壺、甕、壺、高坏等の弥生土器である。土器は小片が多く、完形のものは少ない。遺物は調査区ほぼ全域で出土したが、特に堅穴住居や段状造構の存在する地点で集中して検出されている。サヌカイト剥片も石器工房内に限らず、調査区ほぼ全域から出土した。

#### まとめ

吉野川北岸下流域では、これまで光勝院寺内遺跡で当該期の集落様相が部分的にしか判明しておらず、本遺跡はカネガ谷遺跡とともに吉野川北岸下流域で高地性集落の構造が具体的に把握された初例である。

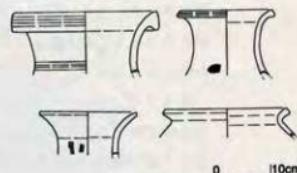
弥生時代の高地性集落の状況が具体的に把握できた本遺跡は、東方2.4kmで確認されたカネガ谷遺跡と共に、吉野川北岸下流域での高地性集落形成の動向を研究する上で、重要な資料となる。（下内）



4 西斜面段状造構完掘状況（北より）



5 石器工房完掘状況（東より）



6 出土遺物

# じょう ど じ 遺 跡

所在地 鳴門市大麻町板東字浄土寺7他

調査期間 2000年5月1日～2000年9月30日

担当者 元木 上庭 須崎 梶河 大石

岩佐 谷 前川

**調査概要** 本調査地は、阿讃山脈の南麓、樋殿谷川が形成する扇状地の扇頂部左岸にあたる標高約26～27mの緩斜面に位置する。現況は水田である。周辺の尾根上には古墳が多く築かれており、すぐ東側には浄土寺山古墳群がある。また県内でも早くから開かれた地域であり、弥生～古代の各時代にわたる遺跡が知られている。本調査地周辺には、かつて浄土寺という寺が存在したという伝承があり、今回の調査では、弥生時代後期の遺構とともに13～14世紀頃の東西の対をなす池状遺構を伴う掘立柱建物群を検出した。検出された主な遺構は中世では掘立柱建物2棟、溝2条、集石遺構16基、炭焼窯1基、土坑13基、ピット275基、不明遺構（池状遺構を含む）8基にのぼっている。

**SA1001** 調査区の中央やや南に位置する総柱の掘立柱建物で規模は桁行4間（9.00m）×梁間4間（8.52m）と推定される。柱穴は平面円形を呈し、人頭大の礫が底部に残されているものもあり、根石とみられる。また、南側の一間は柱間が広く、庇等の構造が考えられる。主軸方向はN $3^{\circ}$ Eである。検出された建物の中では最大であり、建物群のなかで中心的な位置を占めるものと思われる。

**SX1007** SA1001のすぐ南東に位置し、同規模の不明遺構（SX1008）と東西の対をなす南北10mほどの隅丸方形を呈する遺構で、北西隅より、人頭大の礫9個よりなる階段状の石組が出土した。この石組は通路幅が30cm程と狭く、引水用であると考えられ、本遺構は流路から引



1 調査地点の位置（徳島）



2 調査区全景



3 遺構配置図（調査区中央部）

水して水を溜めた池であったとみられる。出土遺物点数は2,300点を数える。埋土中からは完形に近い土師質土器や刀子・軒平瓦・釘・鉄滓等が出土した。

## SU1016

南調査区のはば中央を東西に横切る集石遺構で、幅約1m、長さ約18mにわたって、細長く拳大の礫が連なる。明確な配置ではなく石垣のような堅固な構造は持たないが、方向が建物群の主軸方向とはば直交しており、屋敷境の石組であると考えられる。

## SK1007

調査区の中央部東端に位置し、常滑焼の大甕を中心とした直径約1mの円形を呈する遺構である。この大甕は器高約63cm、口径約32cmで、体部には押印文が5列めぐっている。甕の口縁部が甕内底部に沈んでいたことから、破碎時には、空洞もしくは液体が充填されていたと考えられ、貯蔵のために据えられた可能性が強いと思われる。

## SO1001

調査区北部東寄りに位置する長軸約10m短軸約4mの梢円形を呈する遺構で埋土中から多量の炭化物、炭化木が出土し、床面全体にわたって焼土の広がりが見られた。炭焼窯とみられる。

弥生時代  
の遺構

弥生時代の遺構は調査区の北部でわずかに検出された。体部にタタキ目痕があり、弥生後期に属する甕・鉢等が数個体出土した土坑(SK1014)もあり、弥生時代の生活面が周辺に営まれていた可能性が窺える。

## まとめ

以上のように、今回の調査で複数の掘立柱建物と東西に池を配した庭園を思わせる遺構が確認できた。調査地には、上記の遺構の他になお、数棟の掘立柱建物や礎石建物が存在する可能性があり、庭園を伴う中世寺院の可能性が強いと考えられる。本調査地が伝承の浄土寺にあたるかどうかは整理作業における詳細な検討を待って総合的に判断されるべきものと考える。(元木)



4 SA1001完掘状況



5 SK1007石組遺構



6 SK1007検出状況



7 SK1014検出状況

# じょう ど じ やま 淨 土 寺 山 古 墳 群

所在地 鳴門市大麻町萩原字浄土寺53他

調査期間 2000年4月1日～2000年5月31日

担当者 大石 岩佐

**調査概要** 浄土寺山古墳群は、阿讃山脈南麓の板東谷川に開けた扇状地の東側丘陵地に位置する。

標高は43.5m～51.5mを測り、南に向かっての緩斜面となっている。戦中戦後に山畠として開墾され石垣が多く積まれている。

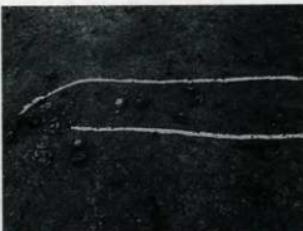
**遺構** 調査区の北端から約20m南に下がった地点で、長さ約4m、幅約120cmの東西に延びる溝状遺構を確認した。西端は丸く切られしており、東端は開墾のためか途切れていた。深さは10cmを測るに過ぎないが、開墾時に大きく削平を受けたと考えられる。

**遺物** 主として遺構の西端部から有蓋高坏及び蓋を中心にしてTK208段階と見られる須恵器片67点が出土した。1はツマミがあり、天井部は回転ヘラ削り、下部はヨコナデが施される。外面には明確な稜を持ち、口縁部は外反する。2は高坏か坏か不明である。3は高坏の脚台部。4は口縁部はやや内傾し、短い脚台を持つ。5は天井部は回転ヘラ削り、下部はヨコナデが施される。6は蓋。7は脚台底部が欠損している。8は取手を両側に持ち、側面に波状文が施され、脚台部に長方形の透かしを4方向に持つ。身と蓋が合うものではなく、祭祀等に使用された後、この溝に廃棄されたと考えられる。

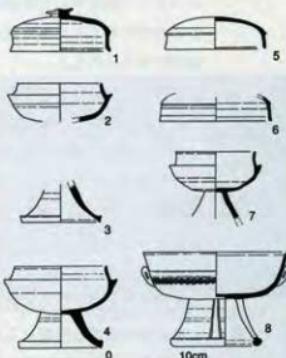
**まとめ** 今回の調査では石室等は確認できなかった。しかし、開墾時に大きく削平を受けているものの、阿讃山麓の石室に良く利用される青緑色の結晶片岩が石垣等も含めて調査区に散在しており、また溝状遺構及び出土遺物から考えて周辺に古墳の存在がうかがえる。(大石)



1 調査地点の位置（徳島）



2 溝状遺構遺物出土状況



3 出土遺物（須恵器）

にし やま だ  
西 山 田 古 墳 群 (I)

**所在 地** 鳴門市大麻町萩原字チコノ谷1-2他

**調査期間** 2000年4月1日～2000年9月30日

**担当者** 田川林

**調査概要** 調査地は阿讚山脈南麓の尾根上に立地する標高75～88mを測る。調査地内に円墳が1基確認された。

**1号墳** 調査地の北側に位置し墳頂部で標高88mを測る。墳丘は地形の制約を受け長軸16m、短軸12mを測り平面形状は楕円形を呈する。墳丘は地山の岩盤を削り出し、整形している。

**主体部** 墳頂部中央に位置する。掘りかたの規模は長軸5.6m、短軸2.1mを測りほぼ長方形を呈す。石室は後世の破壊を受けており、墓壙内およびその周辺に結晶片岩や砂岩が散見できたのみで石室石材は原位置に全く残存していないかった。しかし、墓壙中央から東側にかけて床面が1面のみわずかな範囲で残存していた。直径3cm前後の円礫を用いている。石室形態は不明であるが、墓壙の北、南、東の3方の掘りかたはほぼ垂直に立ち上がるに対し、西側のみがそのまま墳丘斜面に同化することと円礫を用いた床面が確認できたことを合わせて考えると横穴式石室が存在した可能性が考えられる。

**出土遺物** 墓壙を中心にして墳丘斜面からもわずかに出土した。内訳は土師器片、須恵器片、玉類などであるが、墓壙および墳丘斜面の土器は殆どが浮いた状態であり原位置を保っているものは少ない。玉類は東側床面上から比較的まとまって出土した。管玉が7点、ガラス小玉が21点を数え管玉はすべて碧玉製、ガラス小玉はすべて青系統の色調を呈する。

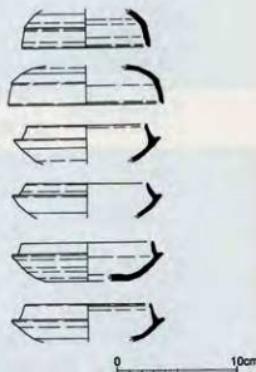
**まとめ** 本古墳は破壊の影響により不明な点が多いが、横穴式石室が存在する可能性を指摘できただけで成果を得られたといえよう。(田川)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 墓壙完掘状況



3 1号墳出土遺物

# かねがだに カネガ谷遺跡

所在地 鳴門市大麻町萩原字カネガ谷4他

調査期間 2000年5月16日～2001年3月31日

担当者 原川村 橋本寿 貞野

**調査概要**　調査地点は、阿讚山脈南麓、標高79m～119mの尾根上に位置する。平地部からの比高差は約69～109mを測る。周辺の尾根上には多くの古墳群が形成され、麓には萩原墳墓群・光勝院寺内遺跡など弥生時代の遺跡が存在する。調査の結果、弥生時代後期初頭の高地性集落であることが明らかになった。また調査区尾根南端において古墳時代中期と後期の円墳が各々1基確認された。

**段状遺構**　竪穴住居群を囲むように地形に沿って、調査区西側および南側斜面において延長約170mが検出された。斜面を大規模に「L」字状にカットしており、カット面の高さは約5mで、幅約5mのテラス状の地形をとどめる。立ち上がりは確認できないが、環壕であった可能性も残る。一部2重の箇所がある。調査区東側は急峻な地形をそのまま利用しており、段状遺構は構築されていない。調査区から北約50mには尾根を分断する壕状の地形が残っている。段状遺構もしくは環壕が北側壕状地形まで延びるとすれば、これらに囲まれた集落の推定面積は約10,000m<sup>2</sup>に及ぶ。段状遺構内堆積土は地山土に酷似した風化砂礫土であり、急峻な地形のため非常に早い速度で堆積したことが窺われる。基底面から多くの弥生土器が出土した。

**竪穴住居**　調査区西側斜面において石器製作跡を含む11軒の竪穴住居を検出した。規模は直径5m前後を測る。主柱は6本が主体となるが、全容が分かるものは少ない。山頂部の平坦面には確認されていない。住居内の遺物の出土量が少なく、各住居とも單一時期であることか



1 調査地点の位置（徳島）



2 調査地点遠景（南東より）



3 竪穴住居群出土状況（北より）

ら、集落の存続期間が短期であったことが確認される。

**内行花文  
放射線状  
文仿製鏡** 調査区北西部の段状遺構基底面より出土。直径6.1cm。重量30.4g。鏡縁の1/2を欠損するが、細い蒲鉾縁で、鏡縁に接して連弧文が巡る。双線13本および単線2本からなる平行直線文が紐から鏡縁に向かって放射状に配され、間に14個の乳文が配置される。紐座はない。紐孔のわたし痕が明瞭に残る。鏡周辺から出土した土器の年代（弥生時代後期初頭）ともあわせて初期の仿製鏡とみられる。



4 1号墳主体部（東より）

**袋状鉄斧** 全長11.0cm。刃部幅5.5cm。現状で重量279.5gの鍛造鉄斧である。袋部の断面形は隅丸長方形を呈する。折り返しが密閉しているため、鍛造鉄斧と見まがう精巧な作りである。時期的には、周辺で出土した弥生土器から弥生時代後期初頭と思われる。



5 2号墳周溝内須恵器出土状況

**古 墳** 尾根頂部先端に6世紀後半の横穴式石室をもつ直径11mの円墳が構築されている。また一段低い尾根頂部に墳丘状の地形が残り、裾部より5世紀前半の須恵器壺・坏が出土している。



6 内行花文放射線状文仿製鏡

**ま と め** 段状遺構で区画された大形の高地性集落である。防御的施設が確認されたのは三野町大谷尻遺跡に次いで四国で2例目である。カネガ谷遺跡では仿製鏡や鉄斧・鉄鎌・銅鎌・磨製石鎌・石杵・土製投弾など、希少な品目がみられる。この地域は、弥生時代終末期から古墳時代初頭には最古式前方後円墳につながる要素をもつ萩原1号墓や西山谷2号墳などが形成され、いち早く外来要素を受容したことが確認される。この地域一帯は物流の大動脈であった瀬戸内と四国東部を結ぶ連結点にあたるが、物資や情報の集積など重要拠点としての基盤形成が後期初頭まで遡ることが確認された意義は大きい。（原）



7 袋状鉄斧

# にし やま だに 西 山 谷 古 墳 群

**所在地** 鳴門市大麻町大谷字西山谷15-2他

**調査期間** 2000年4月1日～2000年6月30日

**担当者** 原川村

**調査概要** 西山谷古墳群は鳴門市大麻町に所在する。

調査地点は阿讚山脈南麓、大谷川右岸の標高54～84mの二股に分かれた尾根上に位置する。試掘調査の結果をもとに、未調査部分の継続調査を実施し、東尾根で5基、西尾根で1基の古墳を確認した。東尾根調査区で出土した古墳群は3号墳を除き、尾根をわずかに整形したもので明確な墳丘はない。時期的には古墳時代前期末～中期初頭に収まる。

**3号墳** 箱式石棺を主体とする。主軸方向は東西で、石材は結晶片岩の板石が用いられる。3号墳からは鉄剣片が3点出土した。

**1号石蓋土壙墓** 墓壙は長方形の平面形を呈し、上面を結晶片岩板石で覆う。主軸方向は南北でやや東に向ふ。鉄剣1点、鉄鎌17点を副葬する。

**1号石室墓** 石室基底部の粘土棺床を一部とどめ、墓壙は長方形を呈する。主軸方向は東西である。

**2号石室墓** 竪穴式石室をもつ。石材には砂岩を用いる。主軸方向は東西である。鉄剣2振、鉄鎌1点、砥石1点を検出した。

**3号石室墓** 竪穴式石室をもつ。主軸方向は東西である。石材には砂岩を用いる。

**2号墳** 調査区西側の南北に延びる尾根の南端に位置し、墳頂部で標高74mの円墳である。出土遺物から3世紀半ば頃の築造と思われる。

**墳丘形態** 墳丘南側裾部標高72m付近に地形変換点がみられ、墳丘基底部と考えられる。地山を削り出して墳丘を作出し、規模は現状で長軸20m、短軸18m、墳丘高約2mを測る。表面には葺石・周濠等の外部施設はみられない。

**竪穴式石室** 墓壙は砂質泥岩層の地山を掘り込み南北6.5m、東西4.8mの長方形の平面をなす。石



1 調査地点の位置（徳島）



2 東尾根調査区全景（西より）



3 2号墳竪穴式石室（南より）

室は主軸を南北におき、国土座標の北より16°西に振る。内法の長さ4.72m、北端幅1.05m、南端幅83cmで、やや北側が開く形状を呈する。結晶片岩板石を小口積みにし、四壁とも持ち送るが、一部に砂岩を併用する。天井部は遺存していないが、持ち送り構造で蓋石を架構していたものと考えられる。

石室床面には、灰白色の粘土棺床がある。棺床の縦横断面は舟底形を呈しており、刳抜式木棺を安置していたものとみられる。木棺の長さ4.2m、棺床上場での幅50cm、基底幅35cmを測る。北頭位であるが、棺の小口幅の差、棺床の高低差はない。棺床全体に水銀朱が拡がり、頭部推定部には多量の水銀朱の散布がみられた。

#### 副葬品

石室内からは多くの副葬品が出土した。棺内北側小口寄りには鉄蘇42 鑓1 鉄劍1・鉄斧1 鉄片20が検出された。鉄劍は切先を北に向けて検出された。

北小口から85cm南の棺中央部では鏡面を上にした完形の青銅鏡が検出された。転落したと推定される結晶片岩礫と鏡外縁部が接し、僅かに傾斜した状態が認められた。なお検討を要するが、棺床部分は後世に攪拌された可能性がある。

石室北小口寄りの棺外には切先を北に向いた鉄槍2が検出された。南小口部分では、直口壺1 売3が検出され、出土状況から石室内に破砕して副葬されたものとみられる。

#### まとめ

鳴門市大麻町から板野町にかけての阿讚山脈南麓に構築された前期古墳には、中国鏡の副葬が卓越するという特徴がある。今回の調査でもその傾向を裏付ける成果が得られた。当該地域は阿波と畿内、瀬戸内地域を結ぶ交通の要地であるが、2号墳は水上交通権を掌握した首長墓と位置づけることができる。



4 2号墳石室北小口遺物出土状況



5 2号墳銅鏡出土状況



6 2号墳石室南小口遺物出土状況



7 2号墳石室移設作業状況

(原)

# おおたにやまだ 大谷山田遺跡

調査地 鳴門市大麻町大谷字櫃原34他

調査期間 2000年4月1日～2000年5月31日

担当者 橋本寿 貞野

**調査概要** 調査対象地は、阿讚山脈南麓の大谷川によってできた扇状地上にある。今回の調査で砂岩を使用した横穴式石室を持つ古墳が1基確認された。また、古墳の西側と南東側にそれぞれ1基ずつ小竪穴式石室墓が確認された。

**横穴式石室** 天井石および側壁上部を破壊されているが、形状は無袖胴張型である。全長9.7m、玄室長6.3m、最大幅2.2m、奥壁幅1.7m、床面からの残存高1.2m、羨道部長1.8mを測る。側壁は小口積みであるが、持ち送りの有無は確認できない。第2次床面には、2～3cmの円礫を、第1次床面には人頭大の平石を敷き詰めている。玄室入り口付近には拳大～人頭大の閉塞石が確認された。小竪穴式石室墓は2基の石室墓とも削平を受け、天井石は消失している。西側のものは長軸1.7m、短軸1mを測る。奥壁には1個の石を使い両側壁は3個の石を並べ2段に積み上げている。南東側のものは破壊が著しく規模は不明である。横穴式石室 小竪穴式石室墓とも砂岩が使われている。

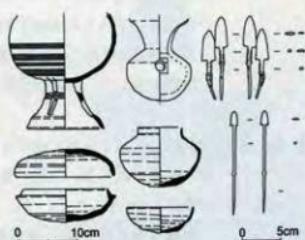
**副葬品** 出土遺物は数量とも少ないが、横穴式石室から、玉類89点、耳環2点、鐵鎌 刀子各1点が、西側の小竪穴式石室から、須恵器の壺 壱蓋各2組 鐵鎌5点が出土した。遺物は、横穴式石室では第2次床面上から主に出土した。小竪穴式石室の遺物の保存は良好で、壺 壱蓋は2組みとも組み合わさったまま、鐵鎌は先端を奥壁に向か5点まとめて出土した。古墳周辺から出土した土器の年代は、6世紀後半から7世紀後半にわたることから、墓前祭祀が継続して行われていた可能性が考えられる。(橋本寿)



1 調査地点の位置(徳島)



2 横穴式石室検出状況



3 横穴式石室出土遺物

# おお しろ 古 墳

**所 在 地** 鳴門市大津町大代字田開谷1484-2他

**調査期間** 2000年4月1日～2000年11月30日

**担当者** 幸泉 木村 章 宮本 原

**調査概要** 阿讃山脈東端南麓から南に派生する標高41～43mの尾根上に位置する。平成12年3月10日にその存在が明らかとなった。

古墳群は前方後円墳である大代古墳と、円墳2基の計3基で構成される。大代古墳北側の直径約22mの円墳を2号墳、南側の直径約15mの円墳を3号墳とする。また東尾根部東端斜面において箱式石棺1基を検出し、その調査を実施した。

**大代古墳** 全長約54m、後円部南北径約31m、同東西径約45m、前方部長約23m、くびれ部幅約18m、前方部前面幅約21mであり、墳高は後円部約6.7m、前方部約3.3mを測る。前方部、後円部とも2段築成であるが、前方部前面および後円部北側では東西側面における第1段テラス裾のラインが墳裾となり、その外側に掘削溝を形成する構造をとる。

墳丘裾、および第1段テラスにいたる斜面裾部で一部葺石を検出した。葺石は墳丘斜面全体ではなく、裾部を列石状に区画する構造をとる。

第1段テラス上、前方部墳頂において円筒埴輪の基底部を検出した。基底部は中心点間の距離がいずれも約90cmを測る。

後円部墳丘斜面では家形、盾形などの形象埴輪が出土した。その出土状況から本来形象埴輪は後円部墳頂に樹立していたものと考えられる。

**主 体 部** 後円部墳頂中央部で南北を主軸とする竪穴式石室1基を検出した。石室内には剝抜式舟形石棺を安置する。後世の盗掘により石室の上半部分は破壊を受けていた。また石棺も蓋は遺存しない。

墓壙は南北約7.4m、東西約4.5m、深さ約80cmを測る長方形プランである。石室は内法で長軸3.7m、北小口幅1.1m、南小口幅1.0mを測る。壁体は結晶片岩板石による主に長手



1 調査地点の位置（鳴門海峡・徳島）



2 大代古墳前方部前面



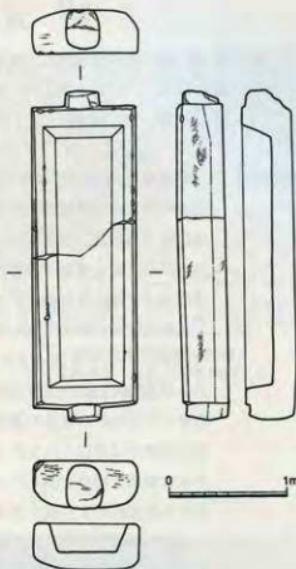
3 剥抜式舟形石棺

積みによって構築されており、北小口部で2段約10cm、南小口部で7段約35cmが遺存する。

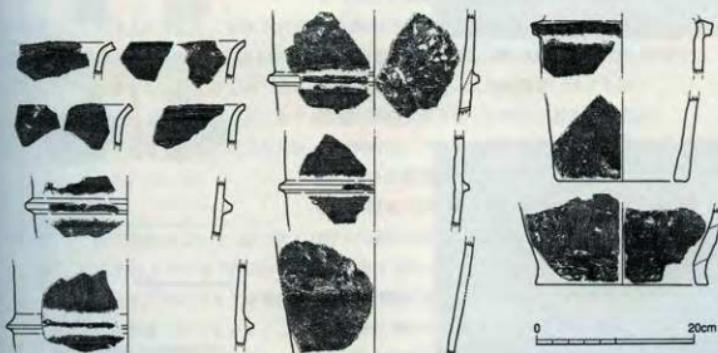
刳抜式舟形石棺は石室のほぼ中央に安置されている。繩掛突起を含む全長が2.84m、内法長2.23m、全幅87cm、内法上端幅66cm、深さは約42cm、同内法約24cmを測る。両小口部外側面にそれぞれ繩掛突起を有する。四壁は内外とも直線的な面加工が施されており、外底面のみ緩やかな舟底状に加工されている。棺全面に水銀朱の塗布が認められた。石材は目視によれば香川県大川郡津田町火山に産する白色凝灰岩である可能性が高い。

**副葬品** 獣形鏡片2、管玉5、白玉538、銅鏡7、鉄鏡26、鉄剣片11、鉄刀片4、鉄鉢片7、長方板革綴短甲1、鎧先2、鉄斧5、刀子15、鏡16、鉄鎌2、手鎌1、鉄鑿2などが主に盜掘埋土中から出土した。

**まとめ** 大代古墳は4世紀末の築造と考えられる。2・3号墳は墳丘規模、構造から大代古墳に付随する古墳であろう。大代古墳は刳抜式舟形石棺を持つ。石材産地の津田から約40km東に位置する大代古墳の被葬者は津田湾岸の首長と親密な関係を有し、かつ鳴門海峡と周辺の港湾を掌握した首長であったと考えられる。(幸泉)



4 石棺展開図



5 大代古墳出土円筒・鏡・輪

# 辺 露 遺 跡

所在地 鳴門市大津町大代字辺露832他  
 調査期間 2000年4月3日～2000年5月31日  
 担当者 斎 宮本

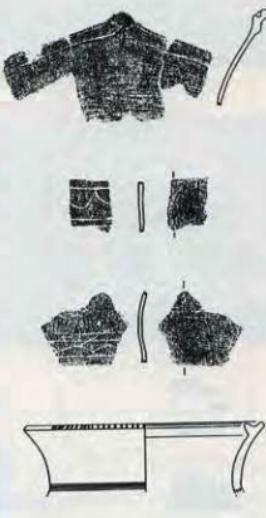
**調査概要**　調査地は阿波山脈の南斜面の日開谷川によってできた扇状地の上部であり、昨年までは畠地であった。標高は3.1m～3.8mを測る。付近には尼塚古墳跡・蟹塚古墳があり、調査区の西は大代古墳と隣接している。

当初の計画の調査区を1区、拡張区を2区（計800m<sup>2</sup>）として調査を行った。主な遺構および遺物として、1区の表土直下の第1包含層からは中世の皿等の遺物が出土した。中世の遺構等は確認されなかった。第1遺構面からは製塙土器など多くの土器を含む南北方向の自然流路が1点検出された。第2遺構面からは古墳時代および弥生時代後期の土器を多数包含する東西性の自然流路が3点検出された。弥生時代の遺構としては第3遺構面から弥生時代後期の土器を含む東西方向の自然流路が3点検出された他、第4遺構面（1区および2区）からは弥生時代前期～後期の土器を包含する土坑が4点等、検出された。特にSK4001からは弥生時代前期末～中期と考えられる広口壺片が炭に混じって、まとまって出土した。自然流路は、検出された遺物の状況等から北から南へ、また西から東へ流れているものと捉えられる。また、弥生時代の第4遺構面より下層の第5包含層からは、波状口縁を持つ深鉢片等、縄文時代後期の土器片が1区2区合わせて約500点出土した。縄文時代の遺構は検出できなかった。

遺構内の遺物密度も高く、出土遺物点数は6,500点を超えた。付近にそれぞれの時期に対応する集落等の存在が考えられる。（斎）



1 調査地点の位置（鳴門海峡・徳島）



2 出土遺物（縄文土器）

# 試　掘　調　査

**調査地** 発掘調査一覧参照

**調査期間** 2000年4月2日～2000年11月30日

**担当者** 須崎 梶河 田川 林 松田幸

槌谷 大石 岩佐 元木 上窪

斎 宮本

**板東塚鼻  
遺跡** 阿讃山脈南麓の樅殿谷川によってできた標高約23～26mの扇状地に位置する。調査区は近年の開墾作業によって大半が削平を受けしており、耕作土下は疊層 砂礫層になっていた。遺構 遺物ともに検出されなかった。  
(須崎)



1 調査地点の位置（徳島）  
①板東塚鼻遺跡 ②西山田古墳群（II）  
③カネガ谷西古墳群

**西山田  
古墳群  
(II)** 調査対象地は阿讃山脈南麓の標高65～84mを測る尾根上に位置する。北側と南側に比較的傾斜の緩い平坦面があり、遺構が存在する可能性が推定できることから、尾根線に沿う形とそれに直交するようにトレンチを合計15ヶ所設定した。各トレンチとも基本層序は腐葉土、風化土、岩盤の順で堆積がみられた。しかし、いずれのトレンチからも遺構 遺物の確認はなかった。（田川）



2 西山田古墳群（II）調査状況

**カネガ谷  
西古墳群** 阿讃山脈南斜面に形成された北東から南西に緩やかに傾斜する標高68～80mの尾根上に位置する。現況は山林である。尾根筋を中心して試掘を行ったが、表土直下は岩盤風化土および岩盤であり、遺構や遺物は検出されなかった。（松田幸）



3 カネガ谷西古墳群トレンチ完掘状況

**延谷東  
遺跡** 調査対象地は阿讃山脈南麓の枝状に分岐した小尾根の中腹標高64～74mに位置する。トレントの基本的な土層堆積状況は、表土直下は砂礫層となっているところが多いが、南端部のみシルト層が堆積しており、その部分から竪穴住居が1軒確認された。住居は尾根

の鞍部に地盤を削り込んでつくられ、弥生時代後期の土器片が出土した。さらに南側に住居の存在する可能性が考えられる。(大石)

**王子八幡神社古墳群** 調査対象地は阿讃山脈南麓の枝状に分岐した東小尾根の中腹標高57~72mを測る鞍部状の地形に位置する。トレンチの基本的な土層堆積状況は表土直下に砂礫層が堆積し、一部シルト層の堆積も見られた。遺物の出土はなく遺構も確認されなかった。(大石)

**長谷古墳群** 阿讃山脈南麓の標高62~77mの細長い尾根上に位置し、現況は山林であった。試掘調査の結果、表土直下が岩盤であり、遺構・遺物とともに検出されなかった。(須崎)

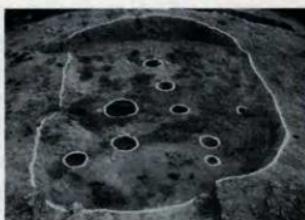
**滝ヶ谷古墳群** 調査地は阿讃山脈の南斜面にあたり、南尾根は天河別神社古墳群へと続き、宝幢寺古墳群とも隣接している。尾根筋およびそれに直交する位置にトレンチを設定し調査を行ったが遺構・遺物とも全く検出されなかった。

(斎)

**中内遺跡** 阿讃山脈の南麓、中内谷川が形成する扇状地の中央に当たる標高24mほどの南へ緩やかに傾斜した丘陵である。古墳等の可能性のある頂上部にトレンチを開口したが、腐葉土直下より、砂岩質の山石を含む扇状地の流れ込み層が続いており、遺物・遺構は検出されなかった。(元木)



4 調査地点の位置 (徳島)  
 ①延谷東遺跡 ②王子八幡神社古墳群  
 ③長谷古墳群 ④滝ヶ谷古墳群  
 ⑤中内遺跡



5 延谷東遺跡竪穴住居全景



6 長谷古墳群トレンチ土層断面

# かん のん じ 觀 音 寺 遺 跡

**所在地** 徳島市国府町觀音寺字屋敷518他

**調査期間** 2000年10月1日～2000年11月30日

**担当者** 大石 岩佐

**調査概要** 観音寺遺跡は、吉野川の支流である鮎喰川左岸に形成された沖積地に立地する。標高は約7.5mを測り、この沖積地全体は南から北へと緩やかに傾斜している。調査地は、民家の庭にあたり、L字状をなしていて、西から東への緩やかな傾斜が見られる。觀音寺遺跡の所在する国府町周辺は、徳島県下の遺跡の中でも豊かな内容を有している。縄文時代や弥生時代の遺構はもちろんのこと、平成9年10年度及び12年度の觀音寺遺跡の木簡の出土によって国府期そして国府設置以前の行政実態が明らかになりつつある。

層位の堆積状況は、地表から約60cmは耕作土及び客土層であり、その下30cmが、包含層と客土層の入り混じる層となる。調査区の南地域で検出された第一遺構面はその下のオリーブ褐色のシルト質層となるが、上層の搅乱が多く入り込んでいる状態であった。第2遺構面は、さらにその下の黄褐色のシルト質層で検出された。その下は砂層となる。

**まとめ** 第一遺構面ではSP26基、SK14基、SX2基が確認された。建物の並びは確認できなかったが、出土遺物より古代後期と想定される。第二遺構面では、SP27基、SK8基、SD1条が確認された。SDは東西方向に走り、幅約1m、深さ約20cmを測る。古代において当調査地の南側には大御和神社から国分尼寺に東西に延びる街道があったことが知られており、その街道沿いの溝の可能性がある。遺物としては、古代後期と見られる須恵器片、古代前期と見られる瓦が出土している。(大石)



1 調査地点の位置 (川島)



2 第1遺構面遺構出土状況



3 第2遺構面溝状遺構

みなみ まえ がわ ちょう  
**南前川町1丁目遺跡**

**所在地** 徳島市南前川町1丁目1  
**調査期間** 2000年4月1日~2000年6月30日  
**担当者** 谷 前川

**調査概要** 本遺跡は、吉野川河口付近の分流である助任川・新町川により形成されたデルタ上にあって標高は約1mを測る。

調査地は、江戸時代の徳島城下町の絵図に記された徳島城の内堀、助任川のすぐ北側に位置する前川地区にあり、中級・下級武士の屋敷及び、屋敷境などの遺構の確認される可能性が高い地点である。

調査の結果、16~18世紀に至る第1~4遺構面が確認され、絵図に記されている武家屋敷の概観が確認された。遺構総数158基を数える。特筆すべき遺構面は第1~3遺構面である。

**主な遺構** 第1遺構面は、攪乱などが多く、19基の遺構群のうち溝2条の付近に屋敷境があったと考えられる。時期的には幕末から明治初頭頃と思われる。第2遺構面は、江戸後期頃、1830年から幕末期頃と考えられ、幅2m前後の溝状遺構 約15基の土坑 60基の柱穴 樹木の切り株状の遺構群から屋敷の裏庭にあたると考えられる。第3遺構面は、東部分に江戸後期の客土の堆積の見られる池状遺構とそれに伴う溝状遺構10条 池の底から井戸状遺構などが検出された。時期的には18世紀~19世紀半の江戸中期頃と考えられる。

**まとめ** 調査地の屋敷配置は、江戸時代の前後半で変化があり、17世紀に西に速水家、東に山崎・佐山家。江戸後半期には、東に村田家が絵図・文献資料に記されている。

屋敷境の溝や庭に伴う池状遺構などの遺構群及び、陶磁器などの多くの出土遺物は、これら当時の武家屋敷の概観を復元する上で貴重な資料である。(谷)



1 調査地点の位置（徳島）



2 第2遺構面全景



3 第3遺構面全景

# なか しょう ひがし 中 庄 東 遺 跡

所在地 三好郡三加茂町中庄437-3他  
 調査期間 2000年4月1日～2001年3月31日  
 担当者 烏田 松田貢

**調査概要** 調査地は吉野川中流域南岸、標高約85mの河岸段丘上に立地する集落遺跡である。堤防事業に伴う調査であるため調査区は吉野川に沿って幅約15m、長さ約500mにわたり、東から順に1～10区まで設定した。調査延べ面積は約11,000m<sup>2</sup>で、遺構面は7～9世紀と13～14世紀の2面を検出し、調査地西端は1面となる。

**古代の遺構** 7～9世紀の遺構面からは、土壙墓が400基余り、掘立柱建物6棟を検出した。また隣接する一般公共事業による調査区と合わせると、N=10°-Eの方向にはしる9世紀段階の南北溝が検出され、それに直交する同時期の東西溝はほぼ1町(109m)間隔で平行して延びる。これは条里制に伴うものと考えられる。

**SX1001** 調査地中央付近(5区)第1面で検出された一辺4.5m、深さ約0.2mの土坑内に10～30cm大の礫を不規則に積んでいる。

土坑南寄りの底部から鏡像が1点、鏡背を斜め上に向けた状態で出土した。鏡像周囲には礫による圓いや容器などの痕跡は認められず、廃棄されたものと考えられる。

**鏡像** 鏡面には、天台法華特有の印相を結ぶ釈迦如来が蓮華座上に結跏趺坐した姿を蹴影りで描く。鏡背には、研磨によって本来の文様が消えかかっているが、鳥1羽、蝶2匹が認められる。研磨の後、鈕の右側に「あみたほとけ」左側に「五」の文字が彫りされる。

釈迦如来が蹴影りされた時期は、目鼻の省略された表現から12世紀末とみられ、鏡背の文字は13世紀初頭とみられる。鏡像の廃棄時期は、供伴遺物から13世紀前葉と考えられる。

鏡像に転用された鏡は直径12.9cm、厚さ1mm、重さ42.7g、青銅製の宋鏡式鏡で、12



1 調査地点の位置（池田）



2 古代遺構面（3区）



3 集石土坑（鏡像出土時）

世紀中頃の鋳造と考えられる。

#### 方形区画 屋敷地

調査地西端で幅約5m、深さ1~1.5mの梯形断面の区画溝が検出された。埋土の下位からは、完形の土器器坏約150点など14世紀代の遺物が出土した。埋土上位からは多くの礫に混じて18世紀の陶磁器が出土している。

現地形、地籍図などから判断すると東西127m、南北124m、敷地面積15,000m<sup>2</sup>を越す方形区画屋敷地が復元され、今回検出したのは区画の北側から北東隅部分である。

#### まとめ

調査地とその周辺部は中世では金丸庄と呼ばれ、1192年の後白河法王院下文案には当地が天台宗妙法院の境外仏堂である蓮華王院（三十三間堂）の莊園であると記されている。この時期は鏡像の製作時期とも重なること、釈迦如来が天台法華特有の印相を結ぶことから、蓮華王院との強い関わりが想起される。

鏡像の搬入経路や安置場所は不明であるが、13世紀初頭には鏡背に文字が彫りされ、13世紀前葉には廃棄されている。1231年の醍醐寺文書には、当地の領主が真言宗醍醐寺溫智院と記され、その経緯は不明ながら莊園領主が交替している。鏡像の廃棄時期と対応するものの、領主交替が廃棄の原因となったか否かは不明である。

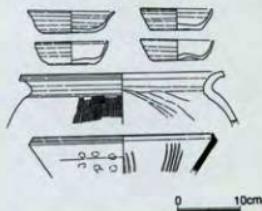
14世紀には幅5mの溝によって区画された方形屋敷地が営まれる。これは三好町円通寺遺跡の館跡（12,000m<sup>2</sup>）より規模が大きく、莊官級の屋敷地であると考えられる。（島田）



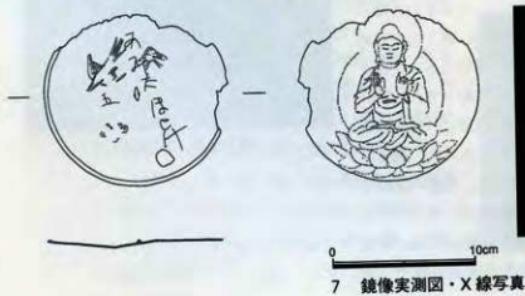
4 鏡像出土状況



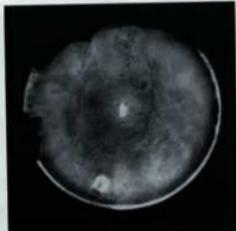
5 区画溝遺物出土状況



6 区画溝出土遺物



7 鏡像実測図・X線写真



# かん のん じ 觀 音 寺 遺 跡

**所在地** 惣島市国府町井ノ尻325他

**調査期間** 2000年4月1日~2001年3月31日

**担当者** 佐藤治 松田幸 梶谷 武市

元木 寛 林 田川

**調査概要** 観音寺遺跡は鰐喰川西岸の河川堆積による扇状地上に立地する。調査地点の標高は現地表面で約6mを測る。遺跡は阿波國府の推定地とされており、1997・1998年度の調査で推定範囲内の西側を北流する自然流路内から多量の木筒が出土し全国的に注目を集めた。本年度はその自然流路が北西に流れの向きを変えた付近で調査を行った。

**自然流路** 南側の調査区がほぼ収まる範囲で確認された。流路は北西方向への流れをもち、北岸は立ち上がりが確認されたが南岸は調査区外へと延び、調査区内での流路幅は約60mを測る。基本層序は上から粘質土層・砂層・シルト層・粘土層の順で堆積し、最終の粘土層上面まで調査を行った。なかでも上位に堆積している粘質土層のうち便宜的に7C層と使用した土層中から大量の木製品とともに木筒が14点出土した。大量の木製品および木筒を含む7C層は自然流路内全面に堆積しているのではなく調査区の南西側と北西側に限られ、とくに南西側に11点の木筒が集中して出土した。これらの木筒は同時に出土した土器から南西側のものは8世紀中頃から後半にかけて、北西側のものは10世紀代の年代が考えられる。また、木筒に伴って舟形木製品や、人形木製品、畜串、曲物などの多量の木製品のほかに獸骨なども出土し、木製品を使用した自然流路との関わりをもつ祭祀のあり方などさらなる検討が必要になるであろう。

**SD3001** 自然流路の北側に展開する微高地で確認された。調査区内での最大幅は5mを測る。



1 調査地点の位置 (川島)



2 舟形木製品出土状況



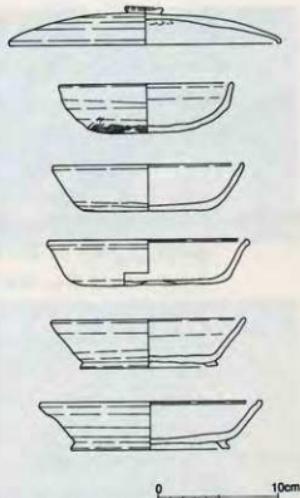
3 畜串出土状況

南東から北西に向けての流れをもつことから、北流する南東側で自然流路が北西に向きを変え鍵形に折れるコーナー部分から取水された溝と思われる。この溝状造構内からも自然流路と同様に木製品が出土していることから、これを裏付けているものと思われる。遺物の出土が少ないために年代の決定までは至らないが、およそ10世紀代の年代が考えられる。遺物の出土状況からも南側の自然流路と共通するところがみられることと溝状造構の南において水田跡が確認されていることとあわせて自然流路から取水した用水路的な性格をもった造構であると思われる。

**土壙墓群** 2時期の造構面にわたって確認された。総数20基を数える。すべての土壙墓が隅丸長方形の平面プランをもち、長軸は約1.7m前後、短軸は約1m前後、深さは0.4~0.6m前後を測り規格性が存在した可能性をうかがわせる。出土遺物が治どみられないために正確な時期などは不明であるが、各造構面の包含層出土遺物から類推すると弥生時代後期と古墳時代後期~古代に構築された土壙墓群と思われる。

この時期の造構面には土壙墓以外に造構はあまり確認できなかった。よって、自然流路に接する立地であることなどから墓域とされていた範囲であることが考えられる。

**まとめ** 今回の調査では南から続く流路の連続性が確認でき、加えて14点にのばる木筒を確認するという大きな成果が得られた。なかでも「天平勝寶二年」と「延暦三年」という紀年銘木筒が2点含まれ、これまでの成果とあわせて考えると国府の存続期間が7世紀中頃から9世紀後半までということが裏付けられた。加えて天平勝寶銘の木筒は「謹んで解し申す…」ではじまる解文木筒であることがわかり、国府および郡衙内における文書形態の上でも木筒と紙の併用があったということが判明し貴重な発見であったといえる。(田川)



4 流路出土の8世紀後半の土器



5 溝状造構完掘状況



6 土壙墓群完掘状況

# 敷地遺跡

**所在地** 徳島市国府町敷地字北浦353他

**調査期間** 2000年4月1日～2001年3月31日

**担当者** 氏家 宮谷 橋本守 大山 堤

高田 高柳 近藤佳

**調査概要** 敷地遺跡の本調査は1998年度より継続して行われている。本年度は1998年度第2分割調査地点の北側を中心として調査を行った。調査区は1～6区に分かれて調査されており、互いに隣接する1～3区では計5枚の遺構面が検出され、その他の4～6区ではそれぞれ1枚の遺構面の調査を行っている。

**第1・2  
遺構面** 1区、2区を中心に検出された水田を中心とした面である。畦畔はほとんど検出できず、区画の大きな水田になる可能性がある。灌漑用の水路を伴っており、時期は室町時代～江戸時代にかけてが想定される。

**第3遺構面** 掘立柱建物2棟、土坑17基、溝33条、水田1面などが検出されている。所属時期は出土した遺物などから平安時代～鎌倉時代と考えられる。

**SR3003** 1区から3区にかけて東西方向に掘削された溝である。調査区内での延長距離は約110mで、幅が約5m、深さは約2mを測る。西側から灌漑用水として引き込まれ、調査区東側を南流する西大堀川に向けての排水を意図していたものと考えられる。溝の底からは土師器の壊、瓦器塊などが出土しており、10～13世紀を中心として機能していたと考えられる。

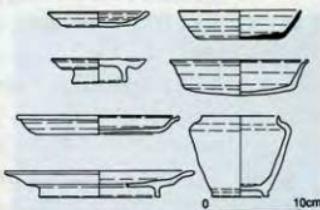
**SR1001** 4区において西大堀川の旧堆積土の層が厚さ約4mにわたって検出された。流路の堆積は約40cmほどの砂層を境として年代が分かれしており、砂層より上は11世紀以後の遺物が含まれており、下は9世紀代を中心とした遺物が出土している。遺物は壊、甕などの土器を



1 調査地点の位置 (川島)



2 第1遺構面完掘状況



3 SR1001出土遺物

中心として、斎串、容器、櫛などの木製品も出土している。また墨書・刻書などの土器類や木簡などの文字資料が出土している。

#### 第4 遺構面

掘立柱建物1棟、竪穴住居12軒、溝39条、土坑 土塙墓あわせて、107基、柱穴335基などが検出されている。出土した遺物の年代は6世紀末～7世紀前半を中心としている。

#### SB4009

2区で検出された一辺約5mの隅丸正方形のプランを持つ竪穴住居である。竪は北壁中央部に配置されており、煙道部が存在する。竪上部からは板状の結晶片岩が出土しており、焚き口部分の補強として用いられていたと考えられる。

#### 第5 遺構面

掘立柱建物1棟、土坑9基、柱穴6基などが検出されている。調査区内の地形が北西隅と南東隅の部分で高くなっていることから、遺構もその付近に集中して検出されている。遺物の年代は弥生時代後期後半である。

#### まとめ

今年度の調査は古墳時代と古代の二時期を中心とした遺構、遺物が検出された。これまでの調査から敷地遺跡は大きく2つの微高地に分かれて形成されており、古墳時代の竪穴住居がそれぞれの微高地上で30軒以上検出されている。ところが7世紀後半以後になると集落は姿を消し、かわって8世紀代に入ると掘立柱建物を中心とした官衙とよく似た建物配置をする掘立柱建物を中心とした屋敷地が形成されるようになる。これらの建物群は国衙の存在が想定されている観音寺遺跡とは、舌洗川を経由して西大堀川へと水路によって結びつきが考えられること、直線距離においても1km以内に位置することから、国府成立期を境としてこれらの微高地上に計画的に役人などの館が配置された可能性が高い。

(氏家)



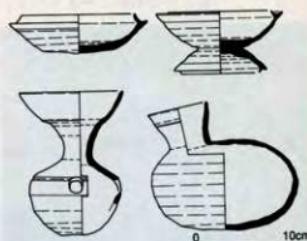
4 第4 遺構面完掘状況



5 第4 遺構面遺物出土状況



6 SB4009完掘状況



7 古墳時代出土遺物

# いけじり さくらま 池尻・桜間遺跡

所在地 徳島市国府町ムサ325他  
 調査期間 2000年4月1日～2001年3月31日  
 担当者 佐藤宏 小泉

**調査概要** 本遺跡は吉野川と鮎喰川によって形成された標高5mの沖積平野に位置する。本年度は昨年度に引き続き中世の水田1枚、古代水田2枚及び7世紀代の土壙墓群、最下層では弥生時代の包含層を検出した。

**第1水田面** 昨年度調査の第2面に当たる。調査区中央付近を東西方向に横断する幅2m、高さ0.2mのN-10°-Wに直行する畦畔と調査区北側ではN-10° Wに平行に走る畦畔を部分的に検出した。又畦畔の南側には畦畔に沿って給水口と考えられる幅0.8m、深さ0.2mの溝を確認した。出土遺物は、水田層より土師質土器、瓦器塊が出土しており13世紀代に位置づけられる。

**第2水田面** 調査区の中央部（東西方向）と北側（南北方向）で、第1水田面と同じ北より10°西に振った位置から大畦畔、及び中央部畦畔の北側から給水用と思われる溝、調査区南西端部から幅1.6m、深さ1.2mの排水用の溝を検出した。水田面は南側に向かい一段窪地状に下がり溝方向に向かって緩やかに傾斜している。時期は土師器坏、須恵器坏、黒色土器B類塊、土錐が点数は少ないが水田層より出土して10世紀代に位置づけられる。

**第3水田面** 調査区の南北方向にN-10°-Wに走る大畦畔とその畦畔に直行する東西方向の大畦畔を検出した。また東西方向の畦畔の南側には給水用の幅0.6m、深さ0.6mの溝が走っている。調査区南西部は窪地状になり、水田面は南に向かって緩やかに傾斜している。窪地状に傾斜した部分から排水用に使用された幅0.2m、深さ0.4mの溝が南西端部に向かって走り、



1 調査地点の位置（川島）



2 第1水田面完掘状況



3 第2水田面完掘状況

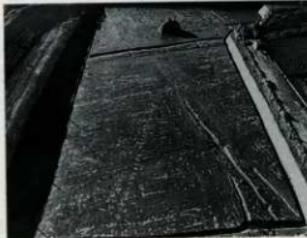
南西端部に走っている溝に合流している。小区画の水田も部分的に確認できた。区画の方向は南北よりやや西に振った状況で、14m<sup>2</sup>前後を測る。第1遺構面から第3遺構面まで確認できた畦畔は、最も古い9世紀代から盛土をして13世紀まで大畦畔として機能したことが確認された。出土遺物は須恵器壊、土師器皿などが出土しており9世紀代に位置づけられる。

#### 第4遺構面

第3水田面下には、黒褐色の古代の包含層が確認されているが、黒褐色包含層中では遺構検出が困難なため黒褐色層を除去して遺構検出を行った。遺構は、土壤、掘立柱建物、溝状遺構が検出された。土壤の規模は長軸1.6~2m、短軸0.8~1m、深さ0.6~2mを測る。平面プランは長方形形状を呈し、主軸方位は南北もしくは東西方向に向き、2~3基平行に並んで検出されている。遺構の断面観察をすると木棺を納めていた可能性のある土壤も認められた。土壤内からは出土遺物はほとんど確認できなかつたので明確な時期は確定しがたいが、上層の包含層出土遺物、昨年度調査の状況等により7~8世紀代に位置づけられる。調査区の中央付近を2条の溝状遺構が5mの間隔で平行に北より45°西に振った方向とほぼ真北に向かって検出されている。規模は幅0.4m、深さ0.1m前後を測る。当地での条里制開始時期の道路状遺構もしくは畦畔に当たる可能性が考えられる。

#### まとめ

今回の調査により昨年度と同様に土壤群が検出され当地が7世紀に墓域に当たることが明らかとなつた。土壤墓は近隣遺跡でも類例が認められ当該期の墓制を考える上で貴重な資料になるとと思われる。また当地はN-10°-Wに条里遺構が残る地域であり、今回の調査により9~13世紀にかけて北から10°西に振った大畦畔が検出できた事は当地の条里成立時期を研究する上で貴重な資料となろう。(小泉)



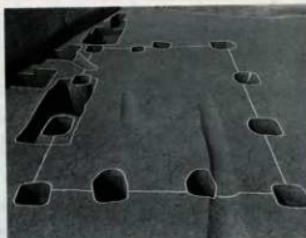
4 第3水田面完掘状況



5 第4遺構面完掘状況



6 土壤墓完掘状況



7 SA4001完掘状況

# 御船屋跡

所在地 徳島市安宅2丁目140他

調査期間 2000年10月1日～2001年3月31日

担当者 谷 前川

**調査概要** 本遺跡は、吉野川河口のデルタ地帯にあって標高約1mを測る。調査地一帯は、徳島藩政時代に阿波水軍の根拠地として、「安宅」の名称で呼ばれ、藩の御船役所の機能が集中していたとされている。調査区の南北約120mの範囲に、御船屋の運河及び、船着場等の設備の一部が確認された。

**SG1004** 提状の石列の遺構で運河の南の落ち込み部分である可能性が考えられる。直径約60～15cm大の結晶片岩の角礫が南北に3～4列並ぶ。船の部品 瓦等の遺物が多い。

**SX1001** 1区の中央部分から北方向に延びた板列の床状の遺構で、運河の方向に傾斜（北端-85.4cm、南端-188.6cm）がある。南の先端部分には太さ直径20～37cmの丸太を槽状に組んで船の引き揚げ口としていたと考えられる。

**まとめ** 調査区は、江戸時代の絵図などに記された阿波水軍の根拠地であり、御船役所として徳島港から通称「大川」と呼ばれる運河を引き入れ、御船蔵を形成していた。

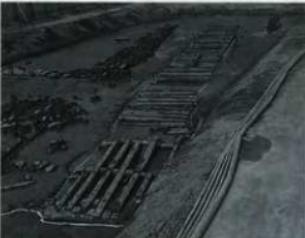
調査の結果、御船蔵の一部分と考えられる遺構が確認された。SX1001（船の引き揚げドック）及び石列を組んで作られているSG1001～4（提状遺構）運河の落ち込みと考えられる土層堆積などは、絵図や文献で得られない御船蔵の具体的な位置など概観を知る上で注目すべき遺構であり、出土遺物に関しては、当時の造船及び、港湾設備の技術を推測する上で貴重な資料が得られたと考える。今後さらに東部分の調査を進めることにより、なお一層御船屋跡の概観を知る手がかりをつかめるであろう。（谷）



1 調査地点の位置（徳島）



2 1区遺構出土状況全景



3 SX1001出土状況

# た みや 田 宮 遺 跡

**所 在 地** 徳島市南田宮4丁目1-34他  
**調査期間** 2000年9月1日~2000年12月31日  
**担当者** 須崎 梶河

**調査概要** 本遺跡は駄喰川と田宮川に挟まれた、標高約2mの沖積地に位置している。周辺では中世の大規模集落である中島田遺跡が知られるものの、現在では都市化の進展によって、近世以前の面影はみられない。平成9年度より行われている調査の第3次調査にあたり、これまでの調査で、中世の遺構・遺物が確認されている。

**調査成果** 遺構面すべてほぼ水平であったが、近世以降も継続して生活が営まれてきたことによつて、遺構面は大きな擾乱を受けている。今回の調査では、近世以降、13世紀末~16世紀にかけての時期、13世紀後半頃埋没したと考えられる自然流路という3面を確認した。

**SD2101** 幅1.3m、深さ0.4mの南西方向にのびる溝であり、南端は調査区外にのびている。底部には水分が多くグライ化した粘土層が堆積する。土器・陶器類は少なかったが、貝殻・獸骨・鉄滓等が含まれていた。貝殻については、そのほとんどをヤマトシジミが占め、他にハマグリ・オキアサリ・オキシシジミ・ハイガイなどがみられた。

**SD2102** 幅1.4m、深さ0.6mの東西方向の溝で、東西両端は調査区外にのびる。備前焼擂鉢や銅製の小柄が出土した。

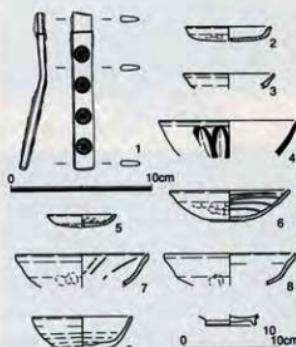
**まとめ** 今回の調査では、平成9年度調査に引き続き、田宮周辺の生活面の形成時期と、中世田宮の人々の生活跡が確認できた。貝殻や獸骨は、当時の食生活を考える資料となるものであり、瓦器壇等出土遺物の中島田遺跡との比較検討は、中世阿波の姿を知るよい資料となるだろう。(須崎)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 SD2101遺物出土状況

3 出土遺物  
(1~3 第2遺構面 4~10 第3遺構面)

# いし いじょう のうち 石井城ノ内遺跡

所在地 名西郡石井町石井字城ノ内381-1

調査期間 2000年9月1日~2000年12月31日

担当者 元木 上窪

**調査概要** 本調査地は吉野川下流域左岸の沖積平野上に位置し、吉野川支流の渡内川と四国山地との間に所在する。県営石井曾我团地建て替えに伴う第3次調査となる。周辺は石井町内で最も遺跡が集中した所であり、清成遺跡、前山公園遺跡等、弥生~古代にわたる遺跡がすぐ近くに存在する。

**第1・第2水田面** 第1水田面は調査区の1/5程度、第2水田面は擾乱を除く調査区全面におよぶ。これら

の水田面は直上より染付、煙管の吸口が出土したことから近世の水田面であると考えられる。

**第3遺構面** 溝10条、掘立柱建物5棟、土壙墓14基等が検出された。溝はそのほとんどが東西南北に直交しており、古代の条里地割に基づく区画溝であると考えられる。溝の区画に沿って3棟の掘立柱建物が築かれ、土壙墓群が並んでいる。掘立柱建物の中には柱間2mを測る規模の大きなものも検出された。

**第4遺構面** 東西方向と南北方向の溝それぞれ3条と円周状にめぐる溝1条、土坑6基、ピット26基等が検出された。検出された溝はそのほとんどが約20cm程度と浅く、削平を受けた可能性がある。一方、円周状の溝を切る形の土坑内から、多数の弥生土器(広口壺、甕、鉢等)が出土した。これらの土器のなかには体部にタタキ目痕があるものや底部に孔を穿ったものもあり、弥生時代後期と考えられる。

**まとめ** 前回の調査では、検出された遺構面の多くが水田面であったが、今回古代と弥生の生活面が確認されたことで周辺地域における今後の調査に新たな期待が持てるものと思われる。

(元木)



1 調査地点の位置 (川島)



2 第3遺構面完掘状況



3 第4遺構面遺構出土状況

# ふるまち 古町遺跡

**所在地** 板野郡板野町大寺字楠ノ本39-2他

**調査期間** 2000年1月1日～2001年3月31日

**担当者** 下内 須崎 喜多 梶河

## 調査概要

調査区は旧吉野川、宮川内谷川、黒谷川により形成された氾濫原の低湿地に位置する。周辺では、平安～室町時代の集落跡である古城遺跡や宮ノ前遺跡が確認されている。この地域は、律令時代の南海道のルート上にあり、郡頭駅の存在が推定されている交通の要衝である。

## 調査成果

調査の結果、3面の造構面が確認できた。第1造構面では、調査区中央部を中心に土坑5基、ビット30基が検出され、第2造構面では、南北方向に直列する5基を含む土坑14基、溝3条、ビット162基が検出された。また第3造構面では、掘立柱建物が1棟、溝11条、土坑11基、ビット86基が検出され、縁釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、赤彩土器、銅鏡、石帶の一部などが出土した。

現段階では、第1造構面は16世紀前半、第2造構面は13世紀、第3造構面は9世紀半ばから後半頃と考えられる。

### SA3001

桁行3間、梁間2間（7.6m×4.6m）を測る総柱建物で、棟方向はN-82°-Wである。確認トレンチにあたる部分を除き、1辺約60cmの隅丸方形の掘り方を持つ柱穴を10基確認した。建物が調査区南隣に位置していることから、さらに南側や西側の調査区外にも広がっている可能性も考えられる。

### SK3001

調査区南東隅で一部が検出された円形の土壤墓である。そのほとんどが調査区内にあるため、本来の大きさは不明である。埋土の上層部に多くの遺物が含まれており、石英片岩製の石帶の一部が出土した。

### SD3001

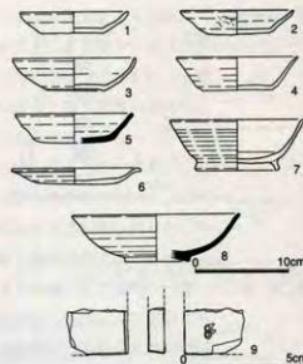
第3造構面では、N-10°-Wに4条、そ



1 調査地点の位置 (川島)



2 SP1031遺物出土状況



3 出土遺物  
(1～3 第1造構面 4～9 第3造構面)

れと直交する東西方向に7条の溝が検出された。溝の方位から条里制に伴うものと考えられる。南北方向の溝は残存長約30mを測る。

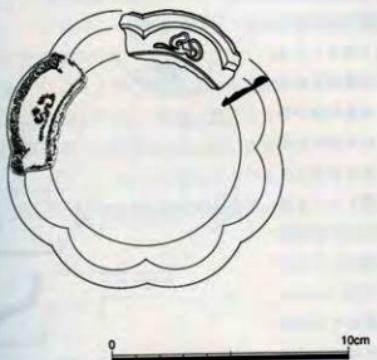
遺物は南北方向の溝に多く、SD3001からは銅鏡が出土している。

**銅 鏡** 青銅製の八花鏡である。出土したのは外区の彩雲が配された部分で、復元される大径は121mm、小径は113mmを測る。唐式鏡に属するが鏡式は不明である。

**石 帯** 石帯の一部を構成する巡方片である。石英片岩製で角は面取りしてあり、潜り穴式である。残存する長軸25.80mm、短軸19.70mm、厚さ7.05mmを測る。

**ま と め** 第3遺構面で検出された掘立柱建物や溝は、いずれもN-10°-Wに近い方位を指し、古代の条里制にしたがったものとなっている。さらに青銅鏡や石帯の一部、赤彩土器、綠釉陶器などの遺物は、官衙との関連を示唆しており、律令時代に都頭駅と国府を結んでいたルートとの関係の深さをうかがわせる。

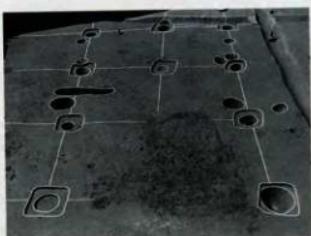
調査区の南側が宮川内谷川の自然堤防にあたることや本年度調査区の遺構分布から、遺構はさらに南側に広がっているものと推測される。(須崎)



銅鏡実測図



4 第3遺構面検出状況



5 SA3001検出状況



6 SK3001遺物出土状況



7 銅鏡出土状況

# まちぐち 町口遺跡

**所在地** 板野郡吉野町西条字町口33-3他  
**調査期間** 2000年4月4日～2000年6月30日  
**担当者** 須崎 梶河

**調査概要** 本遺跡は、吉野川下流北岸の後背湿地に面した微高地上に位置している。標高は約12mを測り、現況は水田であった。平成10年度より行われている調査の第3次調査にあたり、平成11年度調査では、中世と古代の遺構面が確認されている。

**調査成果** 今回の調査でも、中世後半、13世紀頃という2時期の遺構面とともに、面としては確認できなかったが、古代の柱穴の残穴を確認した。遺構面は2面とも北側に向かって下がつており、南側ほど大きく削平を受けていたため、調査区南側では第1遺構面の遺構と第2遺構面の遺構が同一面で検出された。

**SD1001** 幅約2.0m、深さ約0.6～0.7mを測る溝である。真北からやや西よりに構築されており、東側に柵列を伴う。青磁皿や備前焼壺、擂鉢等が出土したことから、16世紀頃まで使用されたと考えられる。

**SD1002** 幅約0.7～0.8m、深さ約0.2mを測る溝である。土師質土器や在地系瓦器壇等が出土した。13世紀頃に使用されたものと考えられる。SD1001は北側が、SD1002は南側がそれぞれ低くなっている。これはそれぞれの溝が構築された時期の生活の中心や、自然流路の位置の影響を受けているものと考えられる。

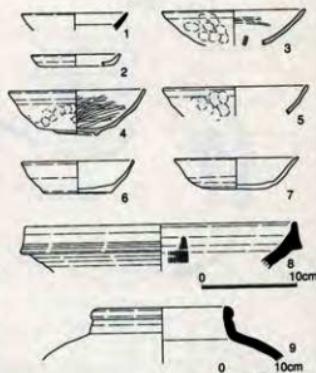
**まとめ** 今回の調査では、建物跡を確認することはできなかったが、柵列を伴うSD1001を確認したことにより、前年度調査で確認した方形区画溝を持つ屋敷地が、さらに北側へ広がっていることが明らかとなった。隣接する西条東城との関係を含め、吉野川下流域の中世史に関する貴重な資料の1つである。(須崎)



1 調査地点の位置 (川島)



2 SP3001遺物出土状況

3 出土遺物  
(1-8 SD1001, 2-5 SD1002, 6-9 SP3001)

# べつしょ 遺跡

所在地 美馬郡脇町2550他

調査期間 2000年12月1日～2001年2月28日

担当者 幸泉 木村

**調査概要** 遺跡は脇町西部岩倉の低位河岸段丘上に位置する。現況はその多くが水田として利用されている。

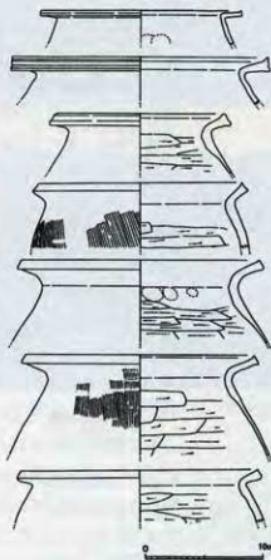
圃場整備事業に伴う道路拡幅部分を対象とし、計20ヶ所のトレンチ調査を実施した。調査の結果、中世に相当する遺構面とこれに対応するとみられる水田遺構（第1遺構面）、古墳時代後期～古代に属する遺構面（第2遺構面）、弥生時代後期前葉を主体とする遺構面（第3遺構面）を検出した。また第3遺構面に伴う遺物包含層中には中期前葉に相当する土器が少量混在する。今年度特に遺構密度が高かったのは第3遺構面である。

**SK3001** 第3遺構面において検出した。長軸1.1m前後、短軸66cm、深さ35～40cmを測る平面梢円形土坑である。覆土最上層より多量の遺物が出土した。土器を主とし、打製石庖丁、叩石、石皿等が出土した。土器は全て弥生時代後期前葉に比定される。遺物の出土状況から短期間に一括廃棄を行った遺物廃棄土坑と推定される。

**まとめ**これまでの調査成果から遺跡が弥生時代中期から中世まで連続と続く大規模な複合遺跡である可能性がある。特に弥生時代は規模が大きく、当該地域周辺における拠点的役割を担っていた可能性ももたれる。(幸泉)



1 調査地点の位置（脇町）



2 SK3001出土遺物

なか しょう ひがし  
中 庄 東 遺 跡

所在地 三好郡三加茂町中庄434他

調査期間 2000年4月6日～2001年3月7日

担当者 相原 河野 光山 大橋

**調査概要**

本遺跡は、吉野川中流域に形成された沖積平野の標高65～66m、吉野川からの比高差約5mに位置する。調査区は南北に設定され、吉野川に近い北側は自然堤防の微高地、南側は後背湿地にあたる。

調査の結果、南側の低地部分には7世紀後半から小集落が営まれ、8世紀以降、水田として利用されてたことが明らかとなつた。また北側の微高地部分は、8世紀後半から13世紀にかけて集落跡が確認された。検出した遺構は柱穴1660基、土坑660基、溝状遺構49条、竪穴住居5棟、掘立柱建物2棟である。竪穴住居跡5軒と掘立柱建物1棟は、調査区の南側でまとめて検出された。竪穴住居は北側に煙道を伴っており、ほぼ真北を意識している。また掘立柱建物は2間×3間の規模で南北棟である。柱穴や土坑は調査区のはば全面にわたって検出されたが、北側の微高地上に集中する傾向が見られた。

この他、調査区内を南北に約100mにわたりて継貫する幅約1m、深さ0.6～1.6mの溝状遺構が検出された。これはN-10°-Eの方向で直線的に掘られており、現在の地割りにはば一致している。またこれに直行する幅約1～2m、深さ10～20cmの溝状遺構が約110mの間隔で検出され、条里の区画溝である可能性が考えられる。

SB2005

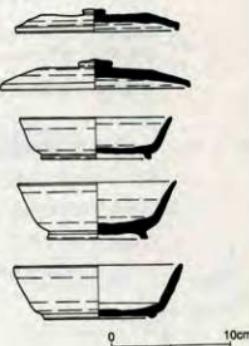
竪穴住居SB2005は一辺約3.5mの隅丸方形で、深さ50cmを測る。北側の壁に竈と煙道を設置している。竈は緑色片岩で2本の柱にし、天板を置いて焚き口を補強して



1 調査地点の位置（池田）



2 20区遺構完掘状況（北より）



3 出土遺物（須恵器）

いたと見られる。また、竈内の支柱には高坏の脚部を利用している。煙道は幅約20cm、高さ約15cmの横穴を90cm程水平に掘り、煙道の先端から斜めに掘った穴によって貫通していることが明らかとなった。

出土遺物から7世紀後半のものと考えられるが、埋土の堆積状況から住居廃絶後に埋め立てられていると考えられる。

#### SA3001

SA3001は3間×3間の掘立柱建物である。東西棟で、規模は東西約6m、南北4.8mである。N-10°-Eの方向に沿って建てられており溝状造構の方向と一致していることから、当時の地割りに沿って建てられていたと考えられる。柱穴は長軸約1m、短軸約60cmの掘りかたをともない、直径約20cmの柱痕が確認された。8世紀末から9世紀代の水田面の北側に隣接して検出された。

#### 土壤墓群

平面形は長軸1.5~2m、短軸0.6~1mの長方形で、深さは0.5~1mを測る。調査区からは136基検出された。ほぼ調査区の全面から検出されたが、分布には粗密が見られる。副葬品などの遺物は少ないが、7世紀後半から9世紀代の造構と考えられる。

#### まとめ

7世紀後半に調査区南側の後背湿地に形成され始めた集落は、数棟の堅穴住居で構成される。8世紀末には集落は北側の微高地に移動し、南側には用水路が引かれて水田になっている。そしてこの地割が中世以降へ引き継がれている事が明らかになった。

集落域からは須恵器の壊、壊蓋などの他、赤色塗彩土器が出土した。昨年度までの成果を考慮すると、官衙的な建物が周囲に存在した可能性も考えられるが、明確な建物などは確認されなかった。

また中世では、和泉型瓦器塊の出土が顕著なことから、吉野川中流域の物流の拠点であった可能性も指摘できる。(大橋)



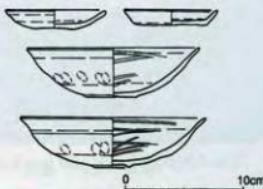
4 SB2005全景（南より）



5 SA3001完掘状況（西より）



6 24区 土壤墓群完掘状況（東より）



7 出土遺物（土師質土器・瓦器）

# おお がき 大 柿 遺 跡

所在地 三好郡三好町昼間2236他  
 調査期間 2000年4月4日～2000年12月31日  
 担当者 加藤 深田

**調査概要** 大柿遺跡は、吉野川左岸の海拔80m前後の台地上に位置する。阿讃山脈から南流する小河谷川等の小河川の堆積作用によって形成された複合扇状地の扇端部あたり、かつ吉野川の河口水によって開析された河岸段丘の低位段丘面に相当する。

昨年度に引き続き、調査対象地は遺跡の立地する微高地南西側縁辺部の傾斜変換部分にあたり、東側の2区が集落部分、西側の1 3-1 3-2 3-3区が水田域と推定された。あわせて1区と3-3区の間の造構面の存在と広がりを面的に把握するためにトレンチによる試掘調査を計4カ所で行った。

**水 田** 西側の調査区では、弥生時代中後期～近世初頭にかけての水田が検出された。部の造構面直上には吉野川の氾濫による洪流水砂が堆積しており、小区画水田の畦畔や水口 水尻、稻株 足跡などが明確に検出できた。

**SK2008** 2区から検出された土坑で、長軸90cm、短軸60cm、深さ40cmを測り、楕円形を呈する。備前の甕の胴体部分に土師器の皿14～15枚を重ねてある状態が確認されたことから、何かの祭祀もしくはまじないに使われていたものであると思われる。

**ま と め** 今回の調査は遺跡の南西側縁辺部にあたり、集落部分ではまとまった成果は得られなかったが、遺跡の西側へ向けて弥生時代中後期から中世まで存続する水田域を捉えることができた。(加藤)



1 調査地点の位置（池田）



2 1区 第6造構面水田完掘状況



3 2区 SK2008遺物出土状況

# ひがし しゅう づ 東 州 津 遺 跡

**所 在 地** 三好郡池田町字州津西ノ久保294-4他

**調査期間** 2001年1月1日～2001年3月31日

**担当者** 加藤 深田

**調査概要** 調査地は吉野川上流域の北岸で、阿讃山脈南麓の標高80～90mの河岸段丘上に位置する。1区の遺構面は北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。昨年度に続き溝状遺構SD1002が南北方向に約11m検出され、幅3.4～3.9m、深さ1.4～1.7m、断面はV字形であった。遺構の底部付近からは、石庖丁などの石器、土師器などが出土し、弥生時代終末～古墳時代初頭にかけてのものであった。2区の遺構面は西から東に向かって緩やかに傾斜しており、東側の包含層上部では、13～14世紀の多量の土師質土器（壺・釜）、須恵器塊などが出土地した。

**SO1001** 2区の北辺中央部付近から検出された炭窯で、長さ3.5m、幅1.9m、深さ0.2mの隅丸長方形をしている。西側に15cmの突出部をもち、肩の部分の内側に直径14cmの柱穴が検出された。

**SK2002** 2区の北西部から検出された土坑で、内部から石器（スクレイバー）や土師器が出土した。石器はサスカイト剝片を用い、基部および刃部に二次加工を施していた。土器は深鉢形土器胴部片で、文様は施されていない。縄文時代後期ないし晩期のものとみられる。

**まとめ** 今回調査された1区のSD1002は、昨年度同様、弥生時代終末～古墳時代初頭の溝状遺構と考えられる。同様に2区のSD1001～3についても、西側へ向けて流れ込んでいることや出土した遺物などから、1区の溝状遺構と同時期のもので、それに流れ込んでいたと考えられる。（加藤）



1 調査地点の位置（池田）



2 2区 SO1001完掘状況



3 2区 SK2002遺物出土状況

## 圃場整備事業関連調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 2000年10月1日～2001年3月31日

担当者 斎 宮本 大石 岩佐

**東原・吉友** 調査地は吉野川の中流左岸の沖積扇状地で  
遺跡 あり、中央構造線上に位置している。西には切  
幡城社がある。調査地を3区に分け、道路や水  
路の予定地域にトレーナーを設定し調査した。  
その結果、2区（東原地区）で古墳時代の自然  
流路、3区（吉友地区）では切幡城の時期  
に対応する多くの遺物を含む中世の土坑が検  
出された。両地区から古墳時代の焼成不良及  
び焼け歪んだ須恵器片が出土した。付近に窯  
の存在も考えられる。（斎）



1 調査地点の位置（甲浦）  
芝遺跡



2 芝遺跡竪穴住居検出状況

**芝 遺 蹤** 調査地は海部川の右岸、海部町の野江 芝  
地区に位置し、直ぐ南に寺山古墳群がある。  
調査地を南北に分け、道路や水路の予定地域  
に沿って調査を行った結果、南区では弥生時  
代後半の土器は出土したが遺構は確認できな  
かった。北区では、弥生時代終末期から古墳  
時代前期と見られる第1遺構面と弥生時代後  
半と見られる第2遺構面を確認できた。前者  
では掘立柱建物の並びの遺構を、後者では一  
辺約5mの隅丸方形の竪穴住居一軒を確認  
した。遺物密度の高い包含層が存在し、遺物  
点数も1万6千を超える。住居も複数の存在が  
容易に想像できる。（大石）



3 調査地点の位置（阿波富岡・日和佐）  
蒲生田遺跡

### 蒲生田遺跡

調査地は四国の東端、蒲生田地区に位置しすぐ東は海岸になっている。付近には舞子島古墳群がある。調査地点を4区に分けて調査した。その結果、1区からは中世の羽釜等の遺物が出土した。また、3区からは弥生時代の遺物を包含する湯湖が検出された。下層の包含層から縄文時代後期を中心とした土器約500点と少數の石器片が出土した。この包含層はさらに東側調査区外へ続くことが確認された。付近の浜堤上には縄文時代の遺跡の存在の可能性が十分あると判断できる。(斎)

### 東山遺跡

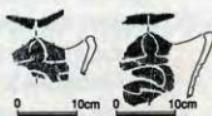
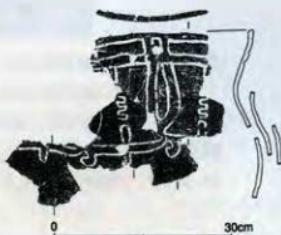
調査区は、桑野川の東部に位置し、盆地の東縁にある。圃場整備にかかる切り土部分の調査を行ったが、中世後半と見られる遺構を確認することができた。周辺には花免塚、薬師庵経塚 五輪塔群があり、同時期と考えられる。出土遺物には中世前半のものも見られ、当地域でのより古い歴史もうかがえる。

(大石)

### 櫛渕・大谷遺跡

調査区は、那賀川下流左岸の沖積平野にあり、櫛渕城址と隣接する北佃地区（1区）と大谷地区（2区）から成っている。遺構は1区から古墳時代の須恵器片を含む土坑が1基検出された。2区からは羽釜等の中世の遺物片が出土したが、遺構は検出されなかった。

(大石)



4 蒲生田遺跡出土遺物（縄文土器）



5 調査地点の位置 (阿波富岡)  
東山遺跡

## 遺跡地図整備事業

**調査地** 那賀郡那賀川町、羽ノ浦町、阿南市、海部郡由岐町、日和佐町、牟岐町、海南町、海部町、宍喰町

**調査期間** 2000年4月1日～2001年3月31日

**担当者** 近藤玲

**事業概要** 徳島県の遺跡地図は、昭和40年（1965年）に発行されたのが最初で、その後、昭和55年（1980年）に文化庁文化財保護部により編集された改訂版の遺跡地図が最新のものである。これらの遺跡地図は、遺跡の場所を点で表示する場合が多く、遺跡の正確な位置の把握が困難という欠点が見られた。

これらの欠点を補うために、平成12～17年度（2000～2005年度）まで県下全域を対象とした分布調査を実施するとともに、現在までの埋蔵文化財包蔵地に関する文献を収集し、分布調査成果とあわせて、総合的な遺跡地図を作成し、埋蔵文化財を保護するため、広く一般に公開することが本事業の目的である。なお、本事業は国庫補助対象の事業であり、徳島県教育委員会の委託を受け、財團法人徳島県埋蔵文化財センターが実施し、県内各市町村教育委員会にも協力を得て、事業を遂行している。

本年度の分布調査範囲は、上記調査地欄記載の各市町であり、調査面積は約15km<sup>2</sup>である。今年度の分布調査成果データと既存の考古学的データからすると、阿南市宝田町郡周辺や那賀郡羽ノ浦町宮倉周辺は、中世以前の遺存状態良好な遺跡の存在が予想されるので、開発工事の際、とくに注意を要する地域といえる。その他の町においても、中世以前の遺物は確実に発見されており、開発時には試掘箇所を選定するなどの作業が必要となってくるであろう。（近藤玲）



1 阿南市宝田町遺物散布範囲  
(阿波富岡)



2 阿南市宝田町郡周辺現況



3 阿南市宝田町周辺採集遺物

## IV 整理事業報告

今年度は、四国縦貫自動車道第10次区間（脇～美馬）及び第11次区間（美馬～川之江）建設関連、一般国道192号徳島南環状道路改築事業関連、県立西部テクノスクール新築事業など、6事業に伴う12遺跡の整理作業を行い、担当研究員17人、整理作業員延べ20,400人が従事した。

四国縦貫自動車道（美馬～川之江）建設に伴う土井遺跡では、平成8年度に発掘した溶解炉壁等の鉄造関連遺物、土師質土器、瓦質土器等の中世を主体とした遺物整理を行った。

一般国道192号徳島南環状道路改築事業に伴う矢野遺跡（I群）では、平成6年度から平成9年度にかけて実施した発掘調査において確認された縄文時代から古代の遺構・遺物のうち、縄文時代及び弥生時代にかけて実施した発掘調査において確認された縄文時代から古代の遺構・遺物について整理を行った。

県立西部テクノスクール建設に伴う貞光前田遺跡では、平成6年度から平成7年度にかけて実施した発掘調査の際に確認された縄文時代から鎌倉時代の集落跡の遺構及び遺物について整理を行い、報告書を刊行する。その他の遺跡の整理概要については一覧に表示した。(西谷)

**出土品整理業務一覧表**

事業名	遺跡名	所在地	委託者	整理期間	整理担当者	遺跡の概要	整理概要	備考
西条テクノスクール建設	貞光前田	美馬郡貞光町東浦 128～4地	鹿島商工労働部 雇用能力開発課	12/4/1～ 13/3/31	沿 日下	縄文～中世の集落	図版作成まで 刊行	報告書は平成12年度に 刊行
熊當住宅（石井曾我 法地）建設工事	石井城／内	名西郡石井町石井字 石井	鹿島商工本部住宅 課	12/4/1～ 13/3/31	岡 山	縄文～近世の集落 生産跡	基礎整理まで	
鳴門教育大学 (附小)校舎新設	南前川町1丁目 1	鳴門市南前川町1丁 目1	鳴門教育大学	12/10/1～ 13/3/31	日 下	近世の武家屋敷	図版作成まで 刊行	報告書は平成13年度に 刊行
四国縦貫自動車道	東 岸(芝坂地区) 2～6地		日本道路公团四国 支社	12/4/1～ 13/3/31	下 座	縄文 中世の集落	図版作成まで	報告書は平成12年度に 刊行
	西 原	三好郡三好町大字足 代字西第270地			大 北	弥生後期の集落	基礎整理まで	
	斐 川	美馬郡美馬町宇賀川 50地			下 座	弥生 中世の集落	基礎整理まで	
	吉 木	美馬郡美馬町字吉木			横 田	弥生 中世の集落	図版作成まで	報告書は平成13年度に 刊行
	丸 山	三好郡三野町勢力字 丸山			久保塙	弥生 中世の集落	基礎整理まで	報告書は平成13年度に 刊行
	土 井	三好郡三野町大字豊 岡字土井614地			大 北	弥生～近世の集落	図版作成まで	報告書は平成13年度に 刊行
	大 植	三好郡三好町大字豊 岡字カワタケメン地			栗林 金森 中村 寛村 横田	弥生～中世の集落 生産跡	図版作成まで	報告書は平成13年度に 刊行
	矢 野	邑南市国府町矢野字 資木403～1地			近藤 岩野 福井 岩野	縄文～中世の集落	基礎整理まで	
一般国道192号徳島 南環状線	觀音寺	邑南市国府町觀音寺 466地	国土交通省四国地 方整備局	12/4/1～ 13/3/31	石尾 西谷	古代の官衙	基礎整理まで	

## V 埋蔵文化財センターの活動

(1) 講演会等の開催 (於 埋蔵文化財センター)

期日	内 容	講 師	参加人数
7/14	第1回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会	広島県教育委員会 小都 隆氏	40名
8/5	第1回埋蔵文化財速報展講演会	鳴門教育大学 木原克司氏	48名
8/6	第1回調査成果報告会	県立川島高校 喜枝秀行氏	46名
		鳴門市鳴門第一小 佐野耕市氏	
		当センター 大橋育順	
		当センター 大石修一	
8/26	第2回埋蔵文化財速報展講演会	奈良国立文化財研究所 山中敏史氏	43名
8/27	第2回調査成果報告会	当センター 氏家敏之	46名
		当センター 藤川智之	
		当センター 原 芳伸	
		当センター 小泉信司	
11/22	第2回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会	徳島県教育委員会 湯浅利彦氏	41名
		徳島市教育委員会 蔵山雄一氏	

(2) 資料の貸出

No	貸出先機関等	目 的	貸 出 資 料	期 間
1	三好町教育委員会	『史跡と遺跡』掲載	東原遺跡他4遺跡の写真	4/3~8/30
2	徳島市立考古資料館	企画展示 図録掲載	矢野遺跡他縄文関係遺物 写真	4/13~7/7
3	貞光小学校	授業用サンプル教材	矢野遺跡他縄文土器	5/28~6/3
4	姫路文学館	特別展展示	萩原1号墓関連写真	6/5~6/19
5	鶴田一雄氏	『懐 古代文字特集 9 10月号掲載	観音寺木簡写真	6/8~9/1
6	徳島市立考古資料館	企画展示 図録掲載	新蔵町一丁目遺跡他近世遺物 写真	7/11~10/13
7	概本誠一氏	『前方後円墳の埴輪構造』掲載	萩原塚群写真	7/13~11/30
8	講談社	『日本の歴史2巻』掲載	矢野銅鐸埋納状況写真	8/8~9/30
9	NHKエデュケーションナル	放送大学『古代日本の歴史』に使用	観音寺遺跡出土論語木簡写真	8/15~9/13
10	講談社	『日本の歴史2巻』掲載	大柿遺跡水田跡写真	8/25~9/30
11	NHKエデュケーションナル	放送大学テキスト掲載	観音寺遺跡出土論語木簡写真	
12	徳島市立考古資料館	企画展示 図録掲載	庄遺跡古墳時代遺物 写真	9/22~12/22
13	角川出版	森浩一氏著作物掲載	矢野銅鐸 埋納状況写真	
14	神戸市埋蔵文化財センター	特別展展示	名東遺跡他朱関連遺物	10/21~12/3
15	美馬町教育委員会	文化祭出張展示	薬師寺遺跡他美馬町出土遺物 写真	11/2~11/5
16	徳島中央高校	授業用サンプル教材	矢野遺跡他石鏡20点	12/12~12/15

No	貸出先機関等	目的	貸出資料	期間
17	城東高校	授業用教材	名東遺跡他さわれる遺物一式	12/12~12/22
18	徳島市立考古資料館	企画展示 図録掲載	名東遺跡他跡喰川流域出土遺物 写真	1/22~2/22
19	徳島市立考古資料館	企画展示 図録掲載	観音寺遺跡他墨書き土器	2/20~4/24

(3) 会議・職員の対外活動等

No	期 間	人 員	内 容
1	H. 12. 4/1~	氏家敏之	藍住町文化財保護審議委員の委嘱
2	H. 12. 4/1~	菅原康夫	徳島市立考古資料館資料展示検討委員会委員の委嘱
3	H. 12. 4/1~	菅原康夫	石井町国分尼寺整備検討委員会調査指導の委嘱
4	5/31 6/7 6/21 6/28	藤川智之 植地岳彦	県立板野高等学校外部講師招聘事業講師（徳島県板野町）
5	6/8 9	事務局長 課長1 係長	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（浜松市）
6	6/22	栗林誠治 田川 憲	県立辻高等学校外部講師招聘事業講師（徳島県三好町）
7	7/2	青木秀明	新野西小学校親子学習講話（阿南市）
8	7/15	日下正剛	第2回徳島城下町研究会発表（徳島市）
9	7/22	菅原康夫	鳴門郷土史研究会講師（鳴門市）
10	9/7 8	所長 事務局長 課長1 係長1 研究員5	全国埋蔵文化財コンピューター等研究委員会中国 四国 九州ブロック地区委員会（徳島市）
11	9/28 29	課長1 研究員2	全国埋蔵文化財実務担当者会（新居浜市）
12	10/5 6	研究員1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（山口市）
13	10/21	大橋育順 大北和美	第1回埋蔵文化財移動展報告会発表（徳島県三好町）
14	10/26 27	所長 課長1 研究員1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国 四国 九州ブロック会議（鳥取市）
15	11/11	大石修一 原 芳伸	第2回埋蔵文化財移動展報告会発表（徳島県海南町）
16	11/15	須崎一幸	板野郡文化財審議委員研修会講師（徳島県吉野町）
17	12/17	菅原康夫 幸泉満夫	古代学協会四国支部第14回大会発表（徳島市）
18	12/19	菅原康夫	徳島県シルバー大学校特別講座講師（徳島市）
19	H. 13. 3/2	植地岳彦	県立阿波高等学校模擬講義講師（徳島県土成町）

(4) 移動展示会等

期 間	展 示 会 名	会 場	来場者数
9/12~9/13	県立名西高校文化祭出展	県立名西高校	60名
10/17~10/26	第1回埋蔵文化財移動展	三好町公民館	120名
10/31~11/12	第2回埋蔵文化財移動展	海南町立博物館	710名
11/3~11/5	美馬町文化祭出展	美馬中学校	500名
11/17~11/18	県立城西高校文化祭出展	県立城西高校	80名

(5) 現地説明会

遺跡名	期日	内容	来場者数
西山谷古墳群	H. 12. 4 22	本年度調査成果の公表	870名
大代古墳	H. 12. 9 16 17	本年度調査成果の公表	1,660名
カネガ谷遺跡	H. 13. 2 3	本年度調査成果の公表	430名
中庄東遺跡	H. 13. 3 10	本年度調査成果の公表	180名



西山谷古墳群 現地説明会風景



大代古墳 現地説明会風景



2000発掘とくしま



敷地遺跡 発掘体験

(6) その他の研修等

期間	研修名	内容	参加人数
H. 12. 4 / 6	徳島県新規採用職員研修	講話、ビデオ視聴、展示室 実習室見学	60名
8 / 2	初任者教員研修講座	講話、施設見学、調査現場見学、講話	14名
8 / 22	遺跡見学会（敷地遺跡）	講話、調査現場体験	38名
12 / 15	県立阿波高校一日就業体験学習（敷地遺跡）	講話、調査現場体験、整理現場体験、まとめ	8名
H. 13. 3 / 6	国府中学校遺跡見学（敷地遺跡）	調査現場見学、講話	5名

## (7) 団体来館

期日	団体名	人數
5／6	池田町川崎小学校 6年生	3名
5／10	徳島市生光学園小学校 6年生	14名
5／12	桑島小学校 6年生	49名
	神山町神領小学校 4～5年生	52名
5／16	県政バス（海部町消費者協会）	43名
5／18	徳島市大松小学校 5年生	60名
6／2	山城町山城中学校 3年生	72名
6／9	山川町川田中小学校 1～5年生	123名
6／21	石井町石井小学校 6年生	104名
7／13	藍里病院ディケア	20名
8／17	南グループ（教員）	17名
10／11	徳島市上八万小学校 6年生	75名
	池田町川崎小学校 1～6年生	17名
	鳴門市堀江南小学校 6年生	24名
10／12	徳島県シルバー大学校北部第1分校	40名
10／14	香川県国分寺町ふるさと教室 5～6年生および保護者	50名
10／17	池田町著蔵小学校 5～6年生	44名
10／18	藍住町藍住西小学校 6年生	126名
10／25	徳島市新町小学校 6年生	48名
	徳島市内町小学校 5年生	58名
	徳島県シルバー大学校西部第3分校	40名
10／26	徳島県シルバー大学校西部第1分校	40名
10／27	板野町板野東小学校 6年生	79名
10／31	臨町臨町小学校 3年生	80名
11／1	徳島市国府小学校 6年生	136名
11／2	徳島市撫養小学校 5～6年生	112名
11／7	中央福祉地区連絡協議会所長会	20名
11／21	鳴門市島田小学校 1～6年生 潘戸小学校 6年生、合同	39名
1／15	鳴門授産センター	19名
2／24	板野郡 5町社会福祉協議会職員連絡会	20名
3／1	徳島県シルバー大学校南部第1分校 OB会	20名
3／10	阿南市社会教育委員会	13名
3／17	板野 内町ボランティア交歓会	30名
3／24	キリスト教徳島協会	24名
	計	1,711名
備考	他、ディケア関係グループ数件	

(8) 来館者数（展示室）

月	来館者数				
	小学生	中学生	高校生	一般	月合計
4月	84	5	3	272	364
5月	273	5	42	563	883
6月	130	78	170	169	547
7月	22	2	4	159	187
8月	110	8	16	528	662
9月	21	2	5	324	352
10月	581	1	0	429	1,011
11月	334	1	1	175	511
12月	5	0	8	107	120
1月	20	2	0	105	127
2月	94	6	5	300	405
3月	83	7	4	331	425
計	1,757	117	258	3,462	5,594

(団体を含む)

(9) 刊行物

『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.11 1999年度』

徳島県埋蔵文化財センター調査概報 第3集

『阿讃山脈東南縁の古墳群－四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報－』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第34集

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告17 薬師 坊僧遺跡』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第35集

『貞光前田遺跡 西部テクノスクール建設に伴う埋蔵文化財調査報告』









書名	寄贈者等名
一般国道410号埋蔵文化財調査報告書 千葉県・千葉市・印西市埋蔵文化財調査報告書 XIII、XX	千葉県埋蔵文化財センター
印旛町埋蔵文化財調査報告書 千葉県埋蔵文化財センター	千葉県埋蔵文化財センター
千葉東部南北二区ータクル 21、22	千葉県埋蔵文化財センター
印旛道店出口・羅原道路 新東京駅周辺埋蔵文化財調査報告書 XX	千葉県埋蔵文化財センター
空港南北工業団地埋蔵文化財調査報告書 2	千葉県埋蔵文化財センター
千葉県印旛地区新吉街造成地埋蔵文化財調査報告書 3、Ⅱ	千葉県埋蔵文化財センター
八千代市内各地遺跡 聖山川流域群多古町谷中地點	千葉県埋蔵文化財センター
主要地名五ヶ町と崎原埋蔵文化財調査報告書	千葉県埋蔵文化財センター
一般国道26号道改整事務所埋蔵文化財調査報告書 1	千葉県埋蔵文化財センター
葛西台住吉大鳥居埋蔵文化財調査報告書 2	千葉県埋蔵文化財センター
印旛地区印旛沼造成地埋蔵文化財調査報告書 2	千葉県埋蔵文化財センター
印旛沼周辺道路 猪々浦・立石堂遺跡 下船河原山宮木道跡・羅部長条跡	千葉県埋蔵文化財センター
下船河原木天神社遺跡 主要地名造成地松尾稲荷	千葉県埋蔵文化財センター
印旛沼周辺道路 猪々浦・上土遺跡 猪々浦・根岸遺跡 猪々浦・西前川遺跡	千葉県埋蔵文化財センター
市原市立原屋里新道跡 東開町立勤労通り・千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書 3、4	市原市
千葉県立勤労通り(二回)埋蔵文化財調査報告書 3	千葉県埋蔵文化財センター
大竹林遺跡 大竹林遺跡 坂戸企久塚西遺跡 坂戸株式会社遺跡 坂戸株式会社遺跡 坂戸小学校遺跡 坂戸小学校遺跡 向井田遺跡 天神台遺跡 印旛郡市文化財センター一年報 15、16	印旛郡市文化財センター
成田ビーカークトリー・個別造成地内埋蔵文化財調査報告書 (3)	印旛郡市文化財センター
中沢野木本郷遺跡 吉見城跡 A 地点	印旛郡市文化財センター
吉見城跡・勝谷群跡 別立遺跡 吉見城跡	印旛郡市文化財センター
金井崎遺跡発掘調査報告書 織幡サノ倉跡 印旛沼遺跡 印旛沼跡 I 猪々田遺跡(遺構編) 坂戸三井跡 多古台古跡群 I 向井内遺跡 中内屋古跡・北の内遺跡 印旛沼遺跡 季楽園公区 小野山古跡群 I - 跡・谷遺跡 上浦ノノ遺跡 中台大字戸遺跡 803-5 地点 古賀遺跡 吉見城跡 (107地点)	印旛郡市文化財センター
印旛沼ノノ遺跡・子谷清水遺跡 上用賀遺跡 II 神田遺跡	印旛郡市文化財センター
猪々浦・金井崎遺跡 千葉市更津洋松谷西谷古墳群・西谷遺跡 印旛郡市文化財センター一年報 (平成8年度)、(平成9年度)	印旛郡市考古資料保存会
市原市印旛東部遺跡地点 (2)	印旛郡市文化財センター
市原市船橋木本郷遺跡・熊津木本郷跡 (第2次)	千葉県船橋町
市原市立島向遺跡 市原市又木遺跡 II 印旛沼遺跡 印旛沼遺跡 印旛沼上工多古跡・猪々浦上新所遺跡・能満番台遺跡・鶴浜田三山脈	印旛郡市文化財センター
印旛沼文化・スガーフ公社埋蔵文化財センター年報 2、3 東中山古跡群 (8、9) 印内台遺跡 (19)、(22) 印内台遺跡 (24) 吉本立遺跡 (7)	印旛郡市文化・スガーフ公社
東中山遺跡群 (11)、(12) 印旛沼文化財センター年報 5 印内台遺跡 印旛沼文化・スガーフ公社埋蔵文化財 平成9年度	印旛郡市文化・スガーフ公社
印旛沼上新所古跡 平成9年度市内新所発掘調査報告書 平成9年度	印旛郡市文化・スガーフ公社
印旛沼上新所古跡 平成11年度市内新所発掘調査報告書 平成11年度	印旛郡市文化・スガーフ公社
山王台遺跡・内宿遺跡 大字印旛沼野新所発掘調査報告書 N	木更津市
木更津市文化財調査報告書 4、5 木更津市内遺跡発掘調査報告書	木更津市教育委員会





寄名	寄贈者等名
新潟県立歴史博物館研究記録 刨削号 新潟県立博物館 宮城県展示施設	新潟県立歴史博物館 新潟県立歴史博物館
<b>富山県</b> 富山県埋蔵文化財センター年報 平成10年度 鶴文隧道・信越の花形土器たち 八重山城 長野県上田市代達跡発掘調査報告 関西大河原 鳥取県発掘調査報告 北陸新幹線関西周辺埋蔵文化財包装海道調査報告-HS-11 HS-12 HS-13- 埋蔵文化財年報 (11) 埋蔵文化財調査摘要 一平成10年度ー 富山考古学研究 第3号 富山県立美術館在来式進路発掘調査報告 富山県立美術館在来式進路発掘調査報告 平成11年度 富山県立美術館在来式進路発掘調査報告 富山県立美術館在来式進路発掘調査報告	富山県埋蔵文化財センター 富山県埋蔵文化財センター 大鳥飛舞委員会、富山県埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 御在山県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事務所 富山県教育委員会 小矢部市教育委員会 小矢部市教育委員会 小矢部市教育委員会 大川町教育委員会 大川町教育委員会 大橋町教育委員会 舟橋村教育委員会 舟橋村教育委員会
<b>石川県</b> 金沢城城郭跡 物語と祈り 松任市相川町薪路跡 岸本町福井町七十九道跡 大谷町直轄跡 小松市御前町西造跡 金沢市中村区C造跡、B、E 丸岡町久江造跡 七尾市三里堀須賀跡、三室まだかけ跡 梅沢市時間元屋造跡 野々市町大松造跡 松本町東造跡 能登市原町造跡 石川県資源地名表 石川県埋蔵文化財報告書 金沢市内進路発掘調査報告書 I 戸木造跡群 戸木大造跡 I 金沢市田上町造跡 金沢市本多町造跡 金沢市寺町造跡 上見附造跡、B 平成11年度金沢市埋蔵文化財調査年報 金沢市考古学研究会記念 特25号 考古学探査研究所内 黒川地区古墳群 古代北陸と出土文字資料	金沢市埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 越前川県埋蔵文化財センター 石川県教育委員会 石川県教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 金沢市教育委員会 能登郡教育委員会 能登郡教育委員会 能登川県埋蔵文化財保存協会
<b>福井県</b> 福井市三尾野古墳群発掘調査報告書 高岡市 越前市 福井市 平成12年特別展 よみがえるふくいのくらし	福井市委員会 福井市教育委員会 福井市教育委員会 福井市教育委員会 福井市立博物館
<b>山梨県</b> 經營堂跡 大月城跡（猪10欠群） 大月城跡 若水亭跡 二本柳跡 大月城保送跡 II Ⅲ区 大月城跡 第7 8次調査 安泰寺造跡 羽根山跡 大隅東水保送跡 B区 桂野遺跡（第1～3号） 西面櫛遺跡 柳井野久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡 雷足見一日目跡 曲西田遺跡・西林遺跡・四ツ坂古墳群 御坂山遺跡・足見跡発掘調査報告書 長崎翁跡 宮沢中村遺跡 石橋北野遺跡 塙崖下遺跡 石之坪跡（東地区） 宜久保遺跡 上ノ屋跡 研究記録 16 帝京大学山梨文化財研究会研究報告 第9集 帝京大学山梨文化財研究所2000年度研究会合	御坂山城発掘調査班、山梨縣文化財研究所 山梨県埋蔵文化財センター 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会、山梨県埋蔵文化財センター 山梨県教育委員会 山梨県立考古学研究室、山梨県埋蔵文化財センター 帝京大学山梨文化財研究所 帝京大学山梨文化財研究所
<b>長野県</b> 更埴各造跡・尾代造跡（含む大堀造跡 富川河岸道路）－鶴文時代編－ 野野原埋蔵文化財センター年報 15 1998, 16 1999	御長野市文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター 御長野市文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

書名	寄贈者等名
星山荘 A、星光山荘 B - 西岡 A - 貞ノ木 - 上ノ原 - 大久保南、東義、森ノ山 - 井ノ木 - 大平 B - 日向林 国立400年土博士バイオアーチeof文化財発掘調査報告書	長野県文化財センター 長野県文化財センター 長野県文化財センター 長野県文化財センター
長野市山古瀬考古学研究会編著 紀元 7 - 1990 B. S. 8 2000	長野県文化財センター
上田城古跡発掘調査報告書 第 5、6、10、11、15、19、27、28	長野県文化財センター
下田城跡 II	
市内遺跡	
宮前遺跡 - II	
市内遺跡発掘調査報告書	
下田城跡 - I、II、及上田城跡	
四ツ塚遺跡 I、II、及上田城跡	
松原遺跡 - 松原古墳群 松原A遺跡群	
八尾山遺跡群 ガラス窯 黒安山岩原遺跡地跡	
奥義寺跡 野代跡	
香坂前遺跡 - III 春屋前遺跡群	
佐久市立歴史館 玉坂 8	
町内遺跡 99	
吉野道跡	
長野県立歴史館研究紀要第6号	
経 告 帰	
吉野道跡	
高根野古墳 二ノ木道跡 市場道跡	
いづべ道跡	
上ノ平道跡 一	
高根道跡	
忍野内道跡	
船山古宮跡群 船山北古宮跡群 船山北道跡	
戸人村道跡 II	
野村道跡 I	
御行道跡	
守屋敷跡	
鶴谷口道跡	
中山道	
岐阜県道路地図	
平成10年版 各都道府県市内道跡発掘調査報告書	
各都道府県文化財年報 10	
静 国 圖	
河原道跡	
平成11年度 大手筋古墳群・勾取上10遺跡発掘調査報告書	諏訪市教育委員会
大手筋古墳群 - 甲10 - 11次発掘調査報告書 -	諏訪市教育委員会
長野バイパス沿線	諏訪市教育委員会
静岡 岐阜平野の古墳古環境情報	諏訪市教育委員会
再びさ道跡 (道幅図)	諏訪市教育委員会
大分郷穴群	諏訪市教育委員会
北B道跡	諏訪市教育委員会
元治道跡 I (通称)、(遺物 考察編 1)	諏訪市教育委員会
佐久市立歴史館 - 一回12年度 -	諏訪市教育委員会
静岡県立歴史文化遺産調査研究所 年報 16	諏訪市教育委員会
同舟道跡群 諏訪田代地区	諏訪市教育委員会
別荘西宮 西浦遺跡	諏訪市教育委員会
静岡県文化財地図 II - 健太郎以西 -	諏訪市教育委員会
静岡県歴史文化道 千葉 1 (平成11年度)	諏訪市教育委員会
静岡県歴史文化道 千葉 2 (平成11年度)	諏訪市教育委員会
清水市内道跡群発掘調査報告書 (平成10年度)、(平成11年度)	諏訪市教育委員会
昭和古墳群発掘調査報告書	諏訪市教育委員会
三井古墳群発掘調査報告書 (説話編)	諏訪市教育委員会
東山古墳群発掘調査報告書	諏訪市教育委員会
春雨道跡群 - 見えてきた古代のくらし -	諏訪市教育委員会
北川山道跡	諏訪市教育委員会
愛 知 県	
下北山道跡	
朝日道跡 N - 一帯資料地點の調査 -	愛知県文化財センター
平成11年版	愛知県文化財センター
愛知県道跡地図集解説 15	愛知県文化財センター
研究紀要 第 1 号	愛知県文化財センター
市内遺跡調査報告書 II 飯子窪跡	愛知県文化財センター
明治19年岐阜県文化財センター研究紀要 第 8 種	愛知県文化財センター
平成11年版 濱口理氏歴史文化財センター年報	愛知県文化財センター
河原に華咲く大製品	愛知県文化財センター
古城城跡 織見城跡	愛知県文化財センター
芦原城跡 寒池遺跡 須藤道跡	愛知県文化財センター
元治道跡 発掘調査報告書 Ⅲ	愛知県文化財センター
尾張元勝の跡第 2 次発掘調査の概要	愛知県文化財センター
尾張文化財調査報告書 33 ~ 35	愛知県文化財センター
下街道工事に伴う岐阜文化財発掘調査報告書	愛知県文化財センター
近畿地区古跡発掘調査報告書	愛知県文化財センター
大内道跡 (D)	愛知県文化財センター
平成11年度 三ツ山古墳調査概要 (II)	愛知県文化財センター
岩佐道跡	愛知県文化財センター
手取古墳群	愛知県文化財センター
さとうきびふるみだより	愛知県文化財センター
飯子・糸川 A 窯跡	愛知県文化財センター
見附台遺跡 99	愛知県文化財センター
尾張元勝の跡第 8 次発掘調査報告書	愛知県文化財センター
名古屋市守崎台考古資料館 年報17 1999 (平成11) 年度事業報告	愛知県文化財センター
尾張元勝の跡第 10 次発掘調査報告書 第 2 号	愛知県文化財センター
尾張元勝の跡記念碑 なごや守白典 8	愛知県文化財センター
名古屋大学文学部研究会集 137	愛知県文化財センター
	名古屋大学文学部考古学研究室

書名	寄贈者等名
考古資料スチック写真集 第15集 展示品目録 I 魏文玲代編 1	名古屋大学文学部考古学研究室 南山大学人類學博物館
<b>三 重 県</b>	
石塚城古墳跡 石塚城古道跡(第11次、第12次) 免辦調查報告	三重県昭和文化財センター
門ノ上古道免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
北嶺古道跡(第1次) 井ヶ号墳	三重県昭和文化財センター
経ヶ崎古道跡(第1次) 三輪山	三重県昭和文化財センター
一般国道47号奈良井川右岸付近庶民文化財免辦調査報告 18	三重県昭和文化財センター
研究紀要 第8号	三重県昭和文化財センター
天文学今後進化群衆免辦調査報告 N. V	三重県昭和文化財センター
森南田遺跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
御前山遺跡 第12次 免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
高須古道遺跡免辦調査報告(記述・和題) 植生文化財免辦調査報告 1	三重県昭和文化財センター
近畿百景名古屋開闢(丸山) 墓葬文化財免辦調査報告 1	三重県昭和文化財センター
近畿百景名古屋開闢(第二名作) 多治原山 1CT 墓葬文化財免辦調査報告 3	三重県昭和文化財センター
近畿百景名古屋開闢(第三名作) 安佐原山 4CT 墓葬文化財免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
一般国道23号中瀬遺跡(9工区) 建設事業に伴う北瀬跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
中瀬跡(23号) 建設事業に伴う北瀬跡免辦調査報告 本文編 国土図	三重県昭和文化財センター
説明書(23号) 建設事業に伴う北瀬跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
馬越谷古道跡(第2次) 免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
外山遺跡 片落 C道跡	三重県昭和文化財センター
佐用道路免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
埴生文化財免辦調査報告 3	三重県昭和文化財センター
作る 高木・部	三重県昭和文化財センター
三重県文化財年報 平成11年度	三重県昭和文化財センター
近畿用木川遺跡群埋蔵文化財免辦調査報告 1	三重県昭和文化財センター
高木大内遺跡(第3・4次) 免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
石塚城古道跡 石塚城東遺跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
古渡通 A 道跡 古渡通 B 古渡通免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
一般国道2号中瀬遺跡(8工区) 建設事業に伴う六太 A 道跡免辦調査報告(木製品編)	三重県昭和文化財センター
報告	三重県昭和文化財センター
八日野通(第2次、第3次) 免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
北瀬跡免辦調査(第2次) 諸古嘗跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
経ヶ崎記念 第10号	三重県昭和文化財センター
三重県の文化財資源 - 平成11年度 -	三重県昭和文化財センター
赤木 A 道跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
赤木城跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
石塚城古道跡 第2次 免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
高木道跡免辦調査報告	三重県昭和文化財センター
「歴 文」解 : 一昔古の墨書き語るもの	三重県昭和文化財センター
風之瀬遺跡 第二回免辦調査報告書	三重県昭和文化財センター
高宮歴史博物館研究紀要 9	三重県昭和文化財センター
高宮歴史博物館年報 平成11年度	三重県昭和文化財センター
<b>滋 賀 県</b>	
滋賀牧場	滋賀県文化財保護協会
滋賀牧場ガイドブック	滋賀県文化財保護協会
紀要 第13号	滋賀県文化財保護協会
レトロ レトロの見豊合	滋賀県文化財保護協会
近江免辦調査報告	滋賀県文化財保護協会
1980年度 墓石用埋蔵文化財免辦調査報告書集	滋賀県文化財保護協会
1980年度 墓石用埋蔵文化財免辦調査報告書集	滋賀県文化財保護協会
芝原通免辦調査報告書	滋賀県文化財保護協会
後川遺跡 I	滋賀県文化財保護協会
序子寺遺跡・野田山遺跡・風穴山遺跡	滋賀県文化財保護協会
栗津津守遺跡・千瀬調査・市浦遺跡	滋賀県文化財保護協会
栗山遺跡・丸山遺跡・藤原山遺跡	滋賀県文化財保護協会
笠置山遺跡・大津遺跡	滋賀県文化財保護協会
20世紀迄古蘭越町ベヌス 10階	滋賀県文化財保護協会
大津城跡 玄矢坂遺跡・中町山遺跡	滋賀県文化財保護協会
大手門遺跡・上下川跡	滋賀県文化財保護協会
内野山跡 1	滋賀県文化財保護協会
大坂山環状水系	滋賀県文化財保護協会
伏見山遺跡	滋賀県文化財保護協会
伏見子石遺跡 1	滋賀県文化財保護協会
朝足尾西 丸岡城遺跡 小足尾遺跡・北郷至小道跡 石坂山遺跡	滋賀県文化財保護協会
延越山遺跡・古吉野山・土居山遺跡	滋賀県文化財保護協会
芦浦遺跡	滋賀県文化財保護協会
後醍醐寺・高木遺跡・八戸遺跡	滋賀県文化財保護協会
金剛山遺跡・御所山遺跡	滋賀県文化財保護協会
吉田山遺跡 稲生山・草谷山	滋賀県文化財保護協会
鳥丸山遺跡免辦調査報告書	滋賀県文化財保護協会
大友路跡 I 鶴田遺跡裏 2	滋賀県文化財保護協会
宮前遺跡免辦調査報告書	滋賀県文化財保護協会
普光院山遺跡免辦調査報告書	滋賀県文化財保護協会
村江遺跡・大津道跡	滋賀県文化財保護協会
太田山遺跡	滋賀県文化財保護協会
船足里遺跡	滋賀県文化財保護協会
上日吉古墳群 深井瀬跡は小堀遺跡免辦調査報告書	滋賀県文化財保護協会
金星遺跡	滋賀県文化財保護協会
今林遺跡	滋賀県文化財保護協会
體ノ山遺跡	滋賀県文化財保護協会
八之森古墳群 大津遺跡	滋賀県文化財保護協会
上出 A 道跡	滋賀県文化財保護協会
御所内古道跡 上出 A 道跡	滋賀県文化財保護協会
御所内古道跡 B	滋賀県文化財保護協会
人見山遺跡	滋賀県文化財保護協会
北部山遺跡	滋賀県文化財保護協会
下之堀遺跡	滋賀県文化財保護協会
鏡音山城跡	滋賀県文化財保護協会









寄 赠 者 等 名	寄 赠 者 等 名
島 横 喜	高柳佐彌藏文化財調査センター、鳥取県教育委員会
西川幸雄 記	鳥取県文化財調査センター
野津川Ⅱ（岐阜） 進藤、女夫吉道郎、城山道郎	鳥取県文化財調査センター
神主城跡 宮崎商店製造部 古八幡付近道筋・根跡古基	鳥取県文化財調査センター
城下町西側道路	鳥取県文化財調査センター
鳥取県教育文化財調査文化財調査センター年報、昭、確	鳥取県教育委員会
鳥取県立文部省文化財調査文化財調査センター年報、昭、確	鳥取県教育委員会
石見銀山 Iwami -Ginzan Silver Mine Site	鳥取県教育委員会
大須賀跡発掘調査報告書	鳥取県教育委員会
西川幸雄道場	鳥取県教育委員会
三田山 道筋 No.2, 3	鳥取県教育委員会
三田山 道筋	鳥取県教育委員会
荒松塚跡 岸和田遺跡 本庄川流域条里遺跡（2）	鳥取県教育委員会
勝負山I 進藤 白石大谷道筋・シトアニ進藤、野津川Ⅱ 進藤 山守免進路・石地蔵道筋	鳥取県教育委員会
杜日山遺跡	鳥取県教育委員会
神原三道筋	鳥取県教育委員会
下山道筋（1）- 脇井道筋の調査-	鳥取県教育委員会
西行基道跡 1995年7月	鳥取県教育委員会
西行基道跡 一平成10年度発掘調査報告書	鳥取県教育委員会
高岡道跡	鳥取県教育委員会
三田山道筋	鳥取県教育委員会
上塙谷横穴墓群第17- 18・19・38支線、大井谷道筋、石切跡等 1- 2、三田谷3号墳	鳥取県教育委員会
光明寺 3号墳 4号墳	鳥取県教育委員会
出雲御城文化財発掘調査報告書 第10集	鳥取県教育委員会
田代塚跡	鳥取県教育委員会
浅野塚跡	鳥取県教育委員会
久米塚跡発掘調査報告書	鳥取県教育委員会
手向地区ふまさと道場遺跡群に伴う手方寺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会、財松江市教育文化振興事業団
北坂寺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会、財松江市教育文化振興事業団
丸山道筋発掘調査報告書	松江市教育委員会、財松江市教育文化振興事業団
高崎寺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会、財松江市教育文化振興事業団
島山大学復元道筋第2 4 8 次調査	島山大学環境文化財調査研究センター
岡 山 県	岡山県
津 直 藤	岡山県古代歴文化財センター
年報 津山生の里 第 7 号（平成10年度）	岡山県生の里文化財センター
日々の保田路	岡山県教委員会
田舎丸山古墳群 田舎丸山道路	岡山県教委員会
二ノ岡東北道筋	岡山県教委員会
伊太郎遺跡	岡山県教委員会
岡山県古文化財センター年報、6	岡山県教委員会
古河地区石室	岡山県文化財センター
山田城塚道筋	岡山県文化財センター
北之坂道筋 2 北方敷ノ内道路	岡山県教育委員会
高見道筋 3 手筋道 2	岡山県教育委員会
加賀東路	岡山県教育委員会
加賀東道	岡山県教育委員会
山中道筋	岡山県教育委員会
山中道筋	岡山県教育委員会
北之坂道筋 2 北方敷ノ内道路	岡山県教育委員会
高見道筋 3 手筋道 2	岡山県教育委員会
加賀東路	岡山県教育委員会
岡山市埋蔵文化財報告、30	岡山市教育委員会
山中道筋 2 小字堀	岡山市教育委員会
岡山市埋蔵文化調査の概要	岡山市教育委員会
岡山市埋蔵文化調査の概要	岡山市教育委員会
岡山市埋蔵文化調査の概要	岡山市教育委員会
大字高松三の丸跡発掘調査報告書	岡山市教育委員会
大字中道跡発掘調査報告書	岡山市教育委員会
竹谷コクシキン園庭	岡山市教育委員会
岡山市埋蔵文化調査実行規程、9	岡山市教育委員会
石狩道筋	岡山市教育委員会
岡山市大学内遺跡調査研究年報、16. 17	岡山市教育委員会
新川溝 1-3号 2-2溝等	岡山市教育委員会
自然科学研究所実行規程、第2号	岡山市教育委員会
第2回 「岡山学」シンポジウム	岡山市教育委員会
広 島 市	広島県
山田1号道跡発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
東ノ尾1号弓削発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
研究施設X	広島県古文化財調査センター
年報 平成11年度	広島県古文化財調査センター
川原2号 3号弓削発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
東北の城古跡弓削発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
城中箭頭跡	広島県古文化財調査センター
上芦井1号塚発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
追田山古跡発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
新川平道跡発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
冠澤道筋	広島県古文化財調査センター
平成11年度実行規程	広島県古文化財調査センター
大字七ヶ弓溝跡 一広島市安佐北区大町等ー	広島県古文化財調査センター
猿尾道筋 一広島市安佐北区祇園等ー	広島県古文化財調査センター
大隅町代のひろしま 佐々木ムラ源生	広島県古文化財調査センター
史跡安芸四分子跡発掘調査報告書Ⅱ	広島県古文化財調査センター
西本寺 1号道跡発掘調査報告書 1	広島県古文化財調査センター
史跡吉田城跡	広島県古文化財調査センター
山崎2号道跡発掘調査報告書	広島県古文化財調査センター
上原道跡	広島県古文化財調査センター
吉成寺跡	広島県古文化財調査センター
福山文化財年報 29	広島県古文化財調査センター
福山文化財年報 30	広島県古文化財調査センター
才可川白山道跡	広島県古文化財調査センター
新立山道	広島県古文化財調査センター
草平千軒町跡	福山市教育委員会、福山市埋蔵文化財発掘調査班
先生古墓群	福山市埋蔵文化財発掘調査班
三原市教育委員会	三原市教育委員会





書名	寄贈者等名
松六町龟田1 次郎丸高石4 田村13 入鹿区 室生が丘 飯石古墳群B群16号墳調査報告書(2) 飯石古墳群A群 大坪南道跡 酒藏前跡 10 福岡市歴史文化財年報 Vol.12 福岡市歴史文化財センター年報 第18、19号 那珂君休道跡 9 下和白山口古墳群 蒲田郡那珂道跡群 6 船崎 7, 8 博多 66, 67, 68 北九 12 北九州道跡群 28 船町 22, 23 大坪道跡 古式道路群 XI 福岡市桜木川沿道跡調査報告書 第20集 南八幡道跡群第8次調査 南八幡道跡群第5次調査 芦原里道跡群 4 船崎 13 船崎道跡 14 有田・小郡部 32 福岡外環状道路開墾地文化財調査報告 6 船町 7 船町 2 福岡市文獻分布地図(西部1) 今立道跡 第5次調査一 金木道跡 平成21年久留米市道跡群 豊前道跡 山川前田道跡 国指定天然記念物水越断層 第21回くもの古資料展 神奈道跡 第16次調査 庄佐屋屋道跡 第4次調査 筑紫国府跡 鳥居小学校校庭道跡 糸島市立小学校道跡 田中瓜々坂 田中松ヶ浦 三吉賀道跡 2区 西原下住吉道跡 三沢庵道跡 上田道跡調査会報 福岡市道跡群 2 福岡道跡 日本片背山道跡 2区 堀当正寺の跡 福塚城跡 平野道跡 筑紫分寺跡 II 馬場道跡 大宰府集落跡 XI, XII, XIII, XIV, XV 大宰府 住野地区道跡群 IX, X 御室印田土地跡道跡 I 横瀬道跡 筑紫東部地区道跡群 II 筑紫東部地区道跡群 III 筑紫東部地区道跡群 IV, V 筑紫西部2地区道跡群 筑紫西部2地区道跡群 (Ⅲ) 上丸島花隈道跡 篠栗道跡 (2次調査) 伊通川 1 八代北部地区歴史文化財免振調査報告 6 白石道跡 埋文化財調査概要 II 久留米道跡 龜井寺跡 イイノヤ B道跡 牛田神社付近道跡 尾崎・友田道跡 金丸道跡 尾崎 天神道跡 N 吉井町溝端跡 富永正地道跡 長良寺跡 猪木大手道跡 吉井鉢蔵道跡 富永黒松道跡 生糸地区道跡 III, IV 官多若草道跡 I II III 下浅橋 (上野 馬鹿元) 道跡 IV 大口磨磨行田燃料所 西田行田 千種行田 周本社道跡 III 周田ノカケ道跡 朝倉町の古墳と埴輪 一分編。宮地藤古墳の調査一 勝源 金台寺過去帳 芦屋町歴史民俗資料年報 第1号	





書名	寄贈者等名
地震災害と考古学 I 保護された日本列島 '95-'99 古代史発掘施設くら2000 遺跡保存方法の検討 大規模道路に配置された文化施設	日本考古学会、復興 沿路大震災被災文化財対策専門委員会 経日新聞社 球磨川新聞社 文化庁 文化庁文化財保護部記念物課

徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.12

—平成12（2000）年度—

平成13年6月30日

編集 発行 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
〒779-0108 徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2  
TEL (088) 672-4545 FAX (088) 672-4550  
URL <http://tokushima-maibun.or.jp>  
E-mail awapac@ma.5.justnet.ne.jp

印 刷 株式会社教育出版センター  
〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地27番地